

平成28年度のモニタリング結果（全体）

【目次】

- | | | |
|----------------------|-------|-----|
| 1. モニタリング調査の枠組み | | P2 |
| 2. 平成28年度モニタリング計画 | | P4 |
| 3. 太郎右衛門地区全体の調査 | | P7 |
| 4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査 | | P50 |

【ご注意】

本資料は、生態系保護の観点から生物の位置に関わる情報などは非表示としています。
ご了承下さい。

1. モニタリング調査の枠組み

- 生態系モニタリング専門委員会では、2つの枠組みでモニタリング調査を考えて行くことが合意されました。
- 太郎右衛門地区全体の調査 → 地区全体の環境を良好な状態で管理していくために必要な情報の収集
- 自然再生事業の実施計画に関わる調査(整備の効果を見る調査) → 目標種の生態に応じた情報の収集

●太郎右衛門地区全体の調査

(1段階)網羅的な調査

- 地区全体でどこにどのような生物が生息・生育するかという情報は定期的に更新が必要なため、これを実施します。



(2段階)①貴重な種および良好な環境に対する調査

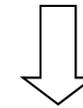
- 保全管理が必要となる貴重な種や良好な環境の実態を把握します。

(2段階)②外来種などの問題生物に対する調査

- 抑制管理が必要となる外来種などの問題生物の実態を把握します。

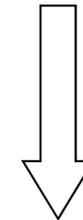
●自然再生事業の実施計画に関わる調査

(1段階)目標種の出現の有無を確認する調査



(2段階)目標種の生息・生育実態を確認する調査

- 繁殖や採餌など、整備地の利用実態を把握します。



(3段階)目標種の定着状況を確認する調査

- 整備地での定着状況を把握します。

参考：目標種

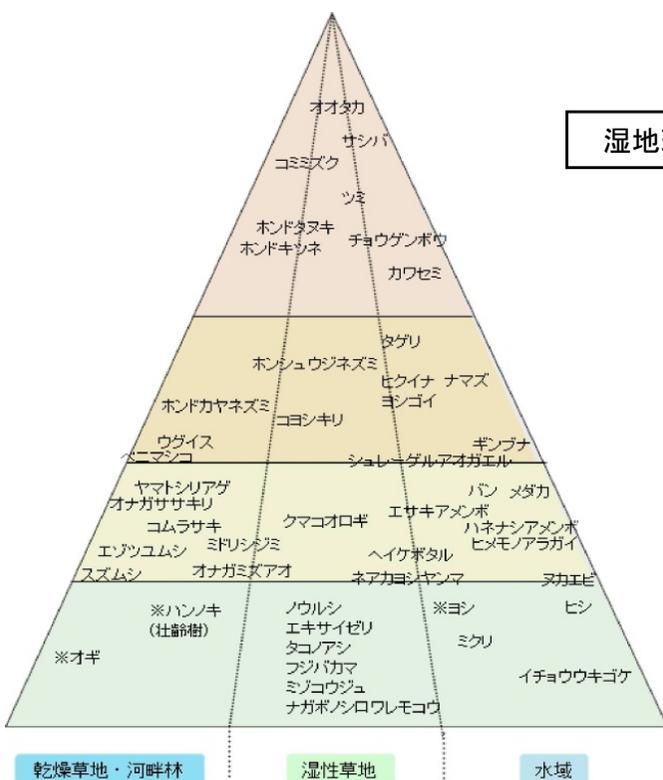
●再生によって期待する生態系(全体構想書より)

- ・太郎右衛門自然再生地では、現状よりも豊かな湿地環境があったとされている。特に現在乾燥化著しい上池でも、かつては湧水によって開放水面が形成されていたとされる。
- ・過去に確認された近年確認記録のないタマシギ、クイナ、サクラソウなどが普通に見られる様な湿地環境の再生が望まれる。

(注) 平成28年7月26日の第43回協議会で、①総合的な目標としてコウノトリを入れたい、②サクラソウは「サクラソウ群落」としたい、との意見があり、協議会で検討中です。

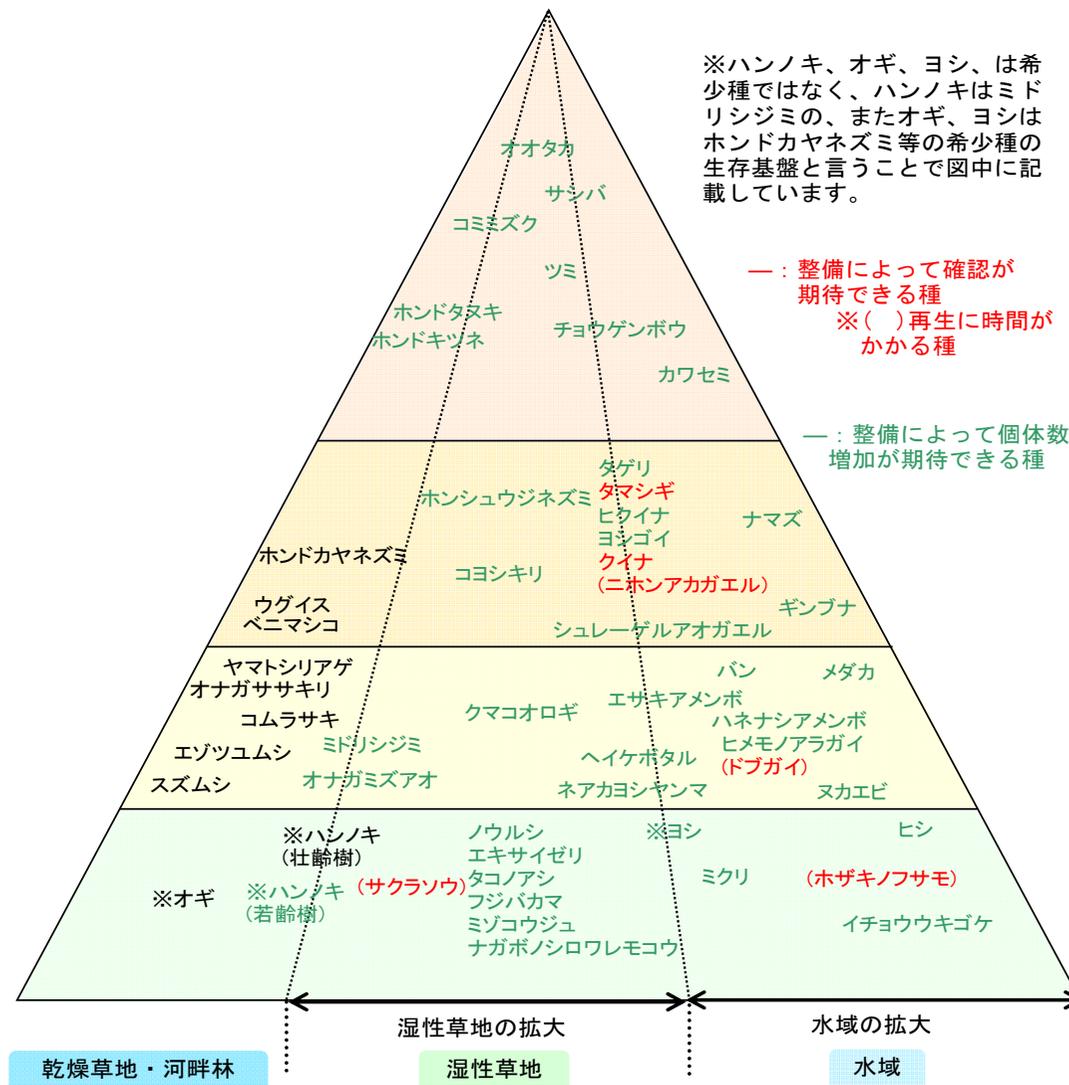
記載種：確認された希少種の内、代表種のみ

現状の生態系



湿地環境の整備

整備後に期待される生態系



※ハシノキ、オギ、ヨシ、は希少種ではなく、ハシノキはミドリシジミの、またオギ、ヨシはホンドカヤネズミ等の希少種の生存基盤と言うことで図中に記載しています。

—：整備によって確認が期待できる種
※()再生に時間がかかる種

—：整備によって個体数増加が期待できる種

湿性草地の拡大

水域の拡大

乾燥草地・河畔林

湿性草地

水域

2. 平成28年度モニタリング計画

 : 報告部分

1) モニタリングスケジュール

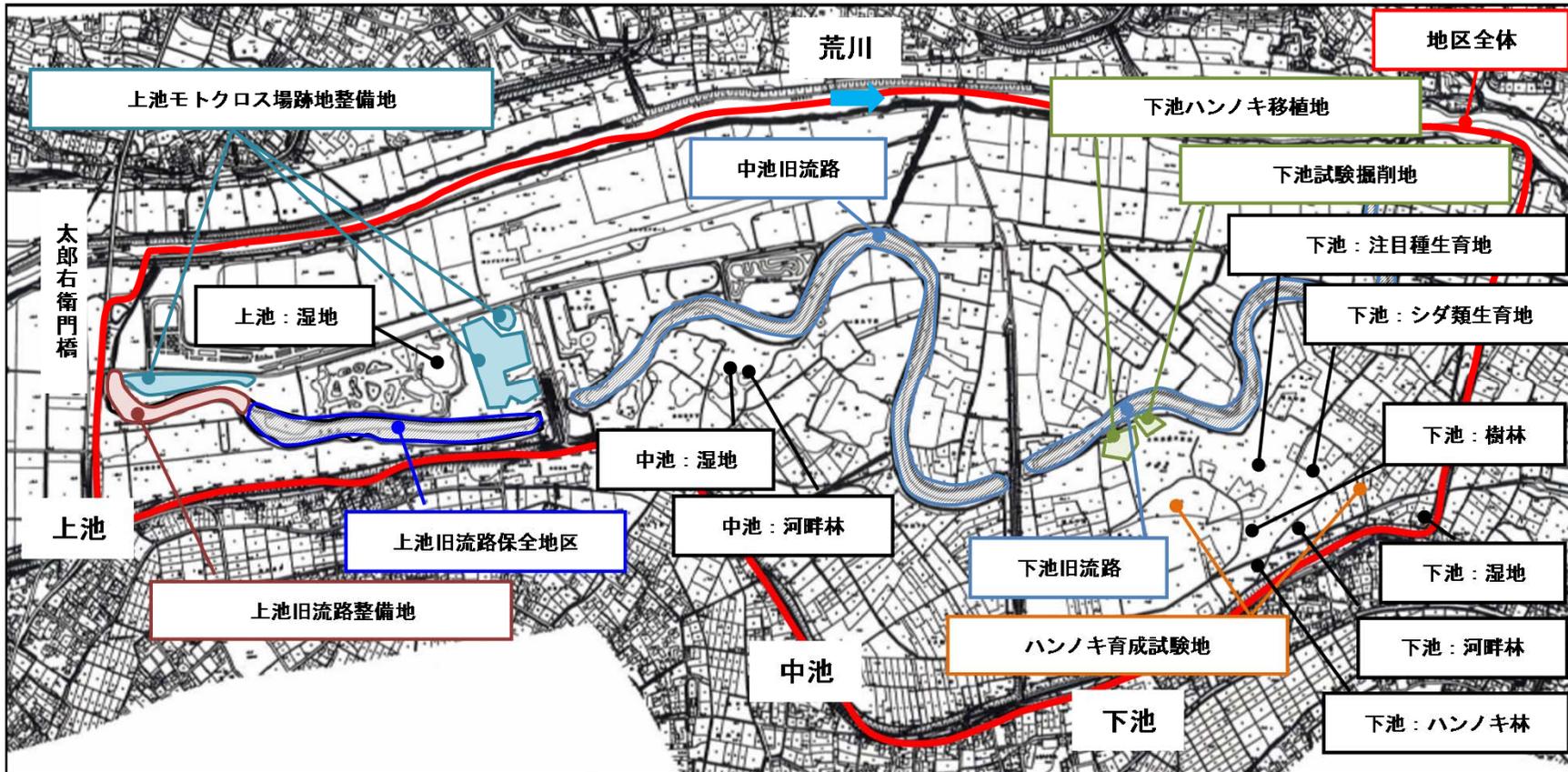
区分	場所	テーマ	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	備考	
太郎右衛門地区全体の調査	旧流路・全域	水位・地下水位	—												連続観測	
	旧流路	水質	●		●		●			●		●		●	6回調査	
	全域	特定の場所	写真	●			●			●			●		四季に各1回	
			植生図							●					夏～秋季：群落成立期	
		植生図								●					夏～秋季：群落成立期	
	両生類・爬虫類・哺乳類			●									●	6月・3月：両生類の産卵確認適期かつその他動物の確認可能期		
自然再生事業の実施計画に関わる調査	上池旧流路保全範囲	植物(植物相)		●			●								5月：エキサイゼリの確認適期 8月：オナモミの確認適期	
	上池旧流路整備地	写真	●	●	●	●	●	●	●	●	●				4-11月に毎月	
		植物	植物相		●			●								5月：エキサイゼリの確認適期 8月：一般的な水生・湿生植物の確認適期
			植生図								●					夏～秋季：群落成立期
		鳥類			●										6月：繁殖期	
		魚類			●										6月：コイ科魚種の産卵期	
		両生類											●	3月：ニホンアカガエルの産卵期		
	上池モトクロス場跡地整備地	写真	●	●	●	●	●	●	●	●	●				4-11月に毎月	
		植物	植物相		●			●								5月：エキサイゼリの確認適期 8月：一般的な水生・湿生植物の確認適期
			植生図								●					夏～秋季：群落成立期
		鳥類			●										6月：繁殖期	
		両生類											●	3月：ニホンアカガエルの産卵期		
ハンノキ育成試験地 下池ハンノキ移植地	写真	●	●	●	●	●	●	●	●	●				4-11月に毎月(下池ハンノキ移植地のみ)		
	ミドリシジミ				○									6月：ミドリシジミの確認適期		
	ハンノキ(高さ・幹径・生育状態) (試験地は群落高のみ)									○				10-11月：生育末期		
下池試験掘削地	写真	●	●	●	●	●	●	●	●	●				4-11月に毎月		
	植物									●				夏～秋季：群落成立期		

● 荒川上流河川事務所調査, ○ 協議会委員との合同調査

● : 前回委員会意見により2月から3月に変更

平成28年度モニタリング計画（案）

2) モニタリング調査の地点・調査日



調査対象		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3
植物	植物相		11-13日			8-10日							
	植生図						7-9日 29-30日						
鳥類				13-15日									
両生類・爬虫類・哺乳類 調査	両生類・爬虫類・哺乳類			13-15日									1-2日
	自動撮影			13-15日									2月28日 -3月2日
	アカガエル類												1-2日
魚類				1-2日									
ミドリシジミ				27日									
ハンノキ (高さ・幹径・生育状態) (試験地は群落高のみ)									14-15日				

2. H28モニタリング計画

3) モニタリング調査の方法

1. 植物調査	方法
植物相	調査範囲内を踏査し、出現した種を記録する。
植生図	調査範囲内を踏査し、出現した群落を記録し植生図を作成する。



2. 鳥類調査	方法
鳥類相	調査範囲を見通せる定点において、出現する種を記録する。



3. 両生類・爬虫類・哺乳類調査	方法
両生類・爬虫類・哺乳類相	調査範囲内を踏査し、姿・鳴き声により生息の有無およびトラップを設置し確認・記録する。(上池5、中池4、下池4、合計13箇所)
自動撮影	調査範囲内に自動撮影カメラを設置する。(上池2、中池1、下池2、合計5箇所)
アカガエル類	調査範囲内を踏査し、卵塊の有無を確認・記録する。



4. 魚類調査	方法
魚類相	調査範囲内において、タモ網・投網・セルビン等を使用し、生息する種を採捕する。



5. ミドリシジミ調査	方法
ミドリシジミ	移植したハンノキを対象に、ミドリシジミの飛来状況を目視で確認する。



6. ハンノキ調査	方法
ハンノキの生育状況	移植したハンノキを対象に、移植地では毎木の樹高・樹径を計測、移植地と試験地では毎木の生育状況(良否、生存・枯死など)を確認・記録する。

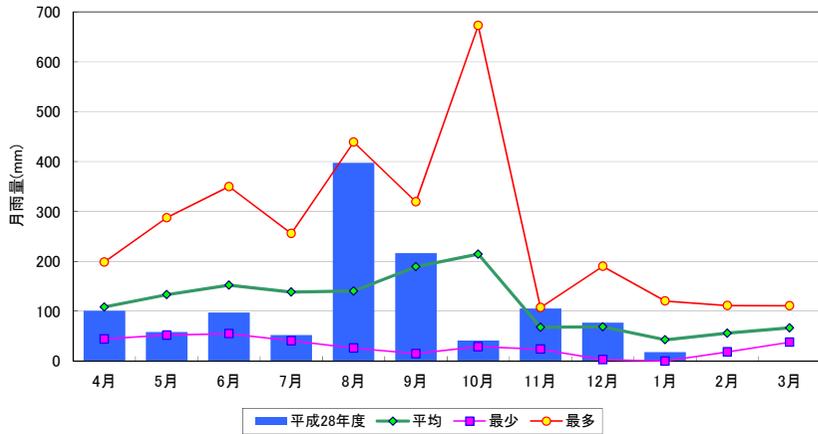


3. 太郎右衛門地区全体の調査

1) 水位・地下水位 ①荒川本川水位と降雨量

- 降雨量は、11月は低気圧・前線の影響により多雨でしたが、12月は平年並みで、1月は少雨でした。
- 荒川本川水位は、10月以降は、降雨により一時的に上昇はしますが、おおむね平均値から最低値付近を示しました。

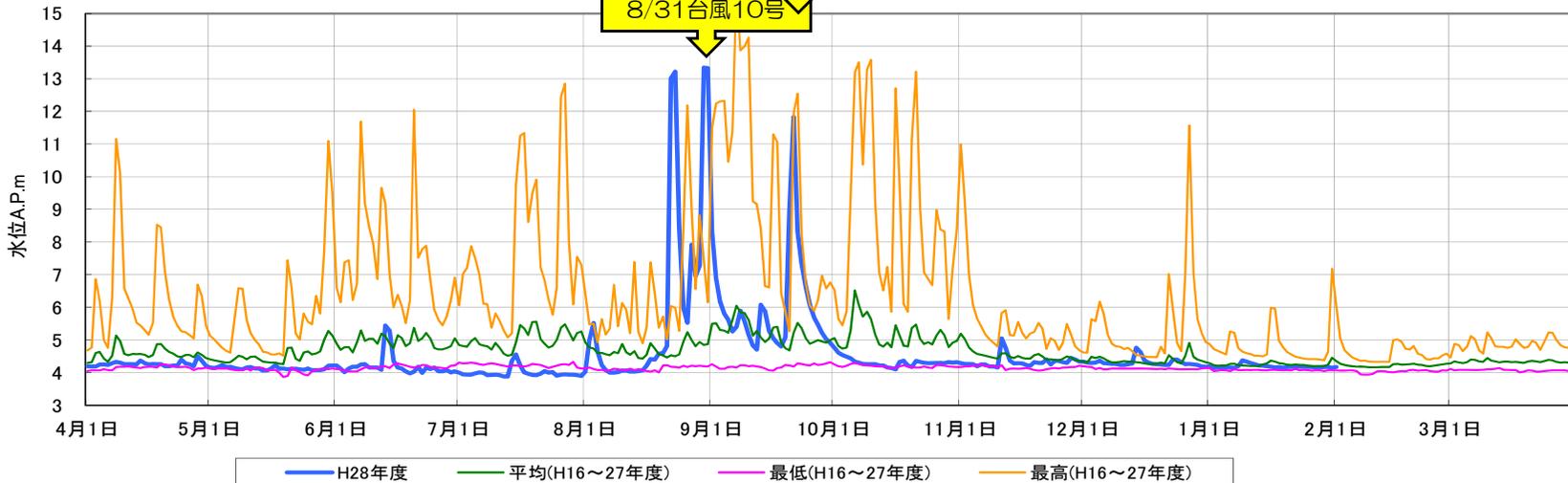
雨量(さいたまアメダス)



観測場所



荒川本川水位



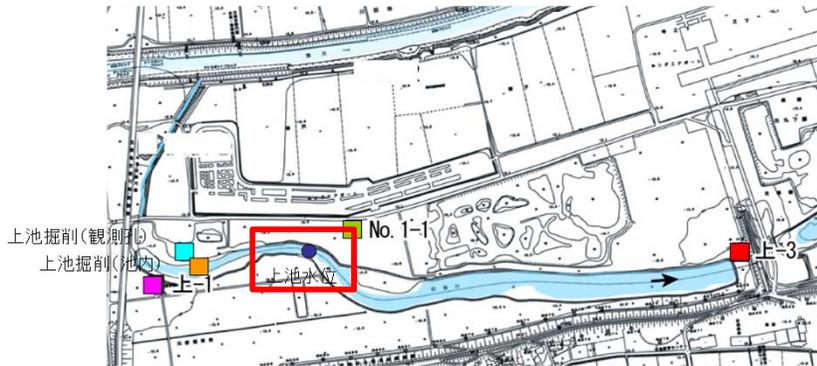
・グラフ中の平均、最低、最高は、H16~27年度の12ヶ年の1日ごとに求めたものです。

・「1日」ごとのデータは、荒川本川はその日の時間最高水位、地下水位は日平均水位です。

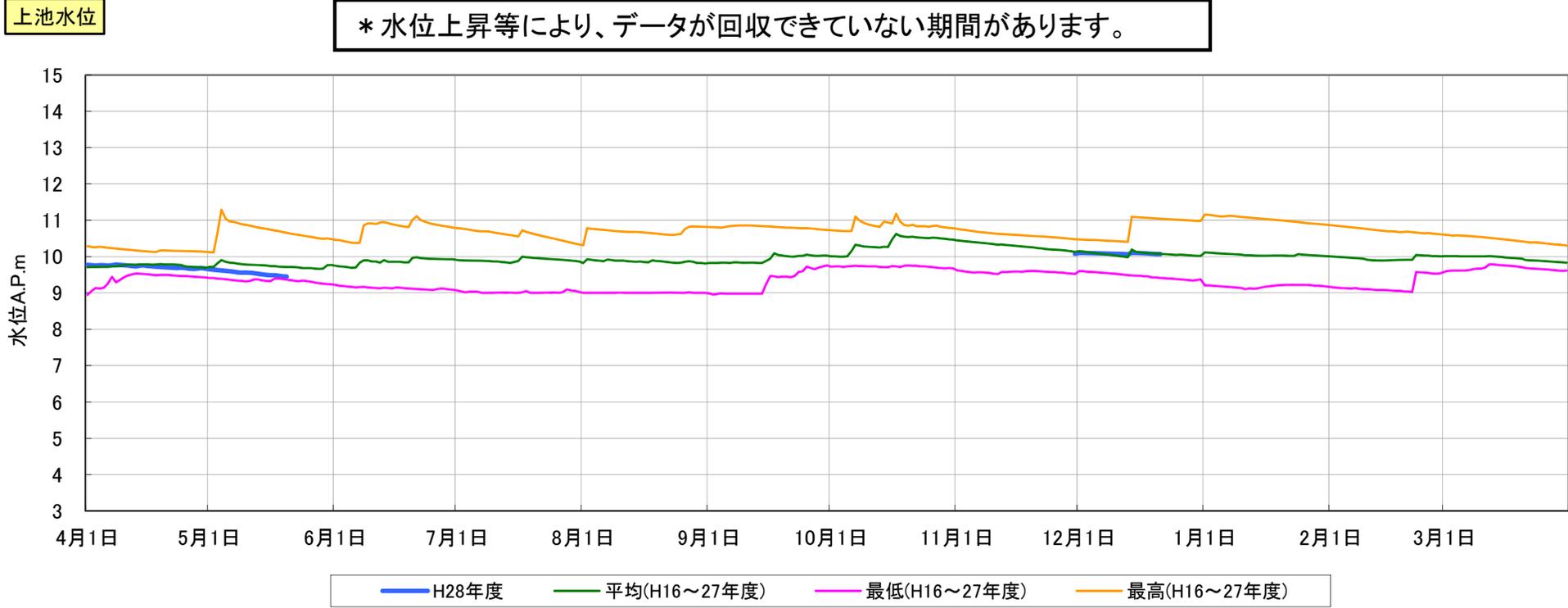
3. 太郎右衛門地区全体の調査

1) 水位・地下水位 ②旧流路水位 上池

●4月は平均値付近を、5月は低下し、12月は平均値付近を推移しています。



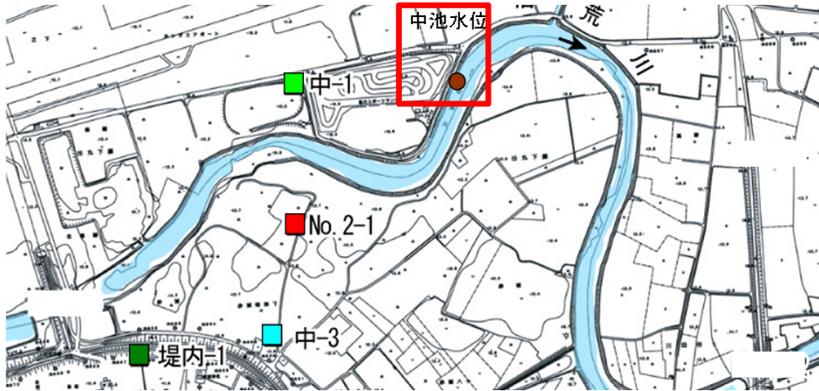
* 水位上昇等により、データが回収できていない期間があります。



3. 太郎右衛門地区全体の調査

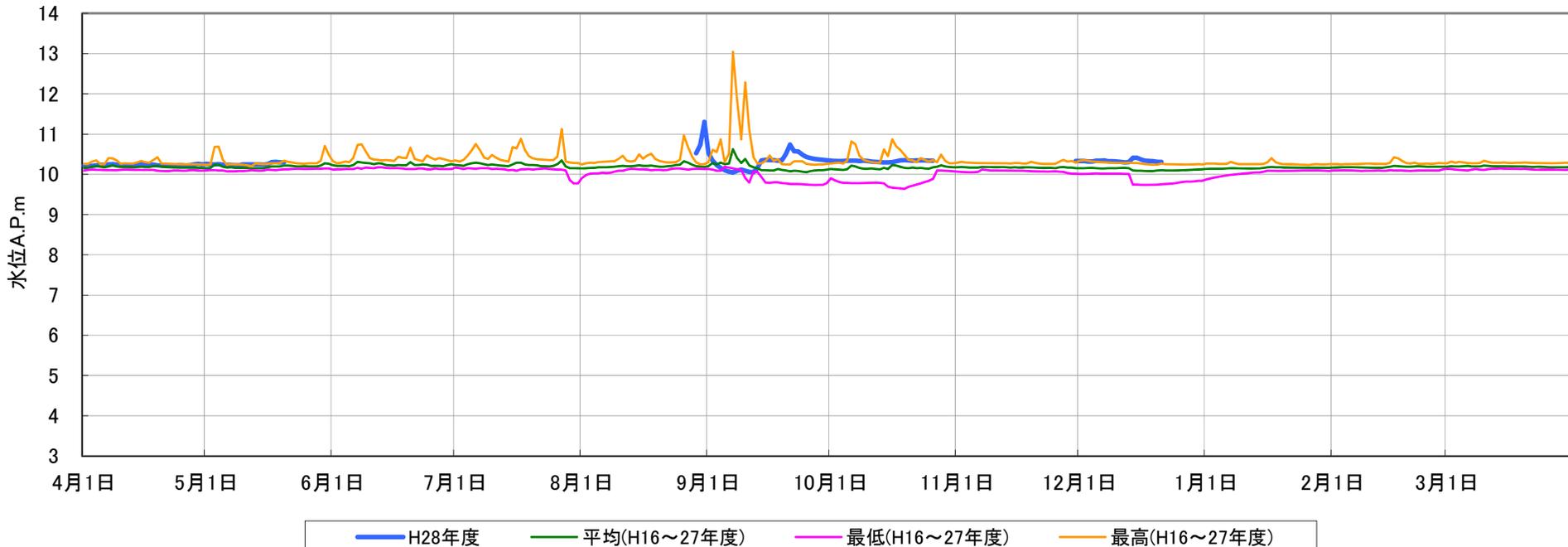
1) 水位・地下水位 ②旧流路水位 中池

- 4月以降はおおむね最高値付近で推移しています。8月下旬の降雨により水位は上昇しました。
- 12月においても最高値付近を推移していました。



中池水位

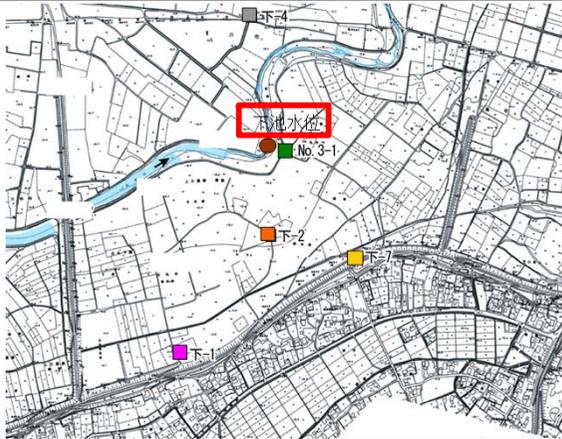
* 水位上昇等により、データが回収できていない期間があります。



3. 太郎右衛門地区全体の調査

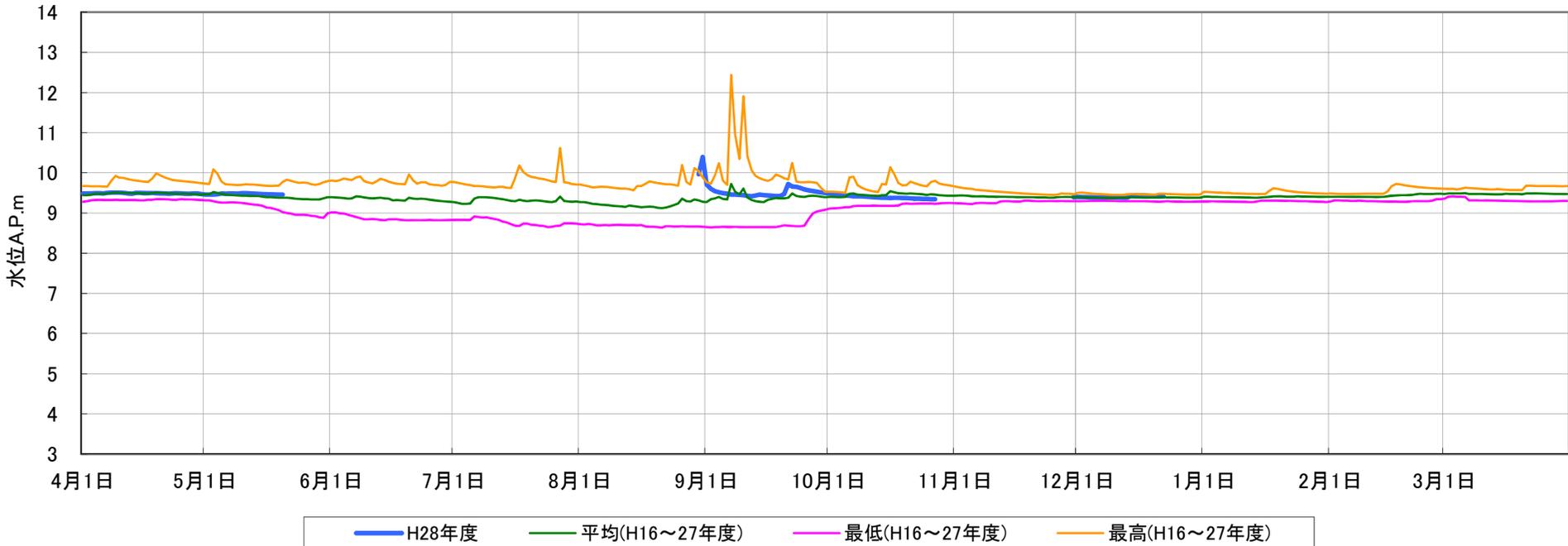
1) 水位・地下水位 ②旧流路水位 下池

- 4月以降はおおむね平均値付近を推移しています。8月下旬の降雨により水位は上昇しました。
- 12月においても最高値付近を推移していました。



下池水位

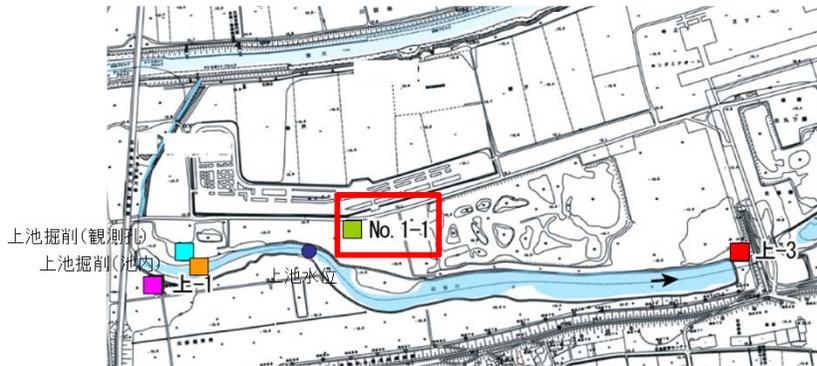
* 水位上昇等により、データが回収できていない期間があります。



3. 太郎右衛門地区全体の調査

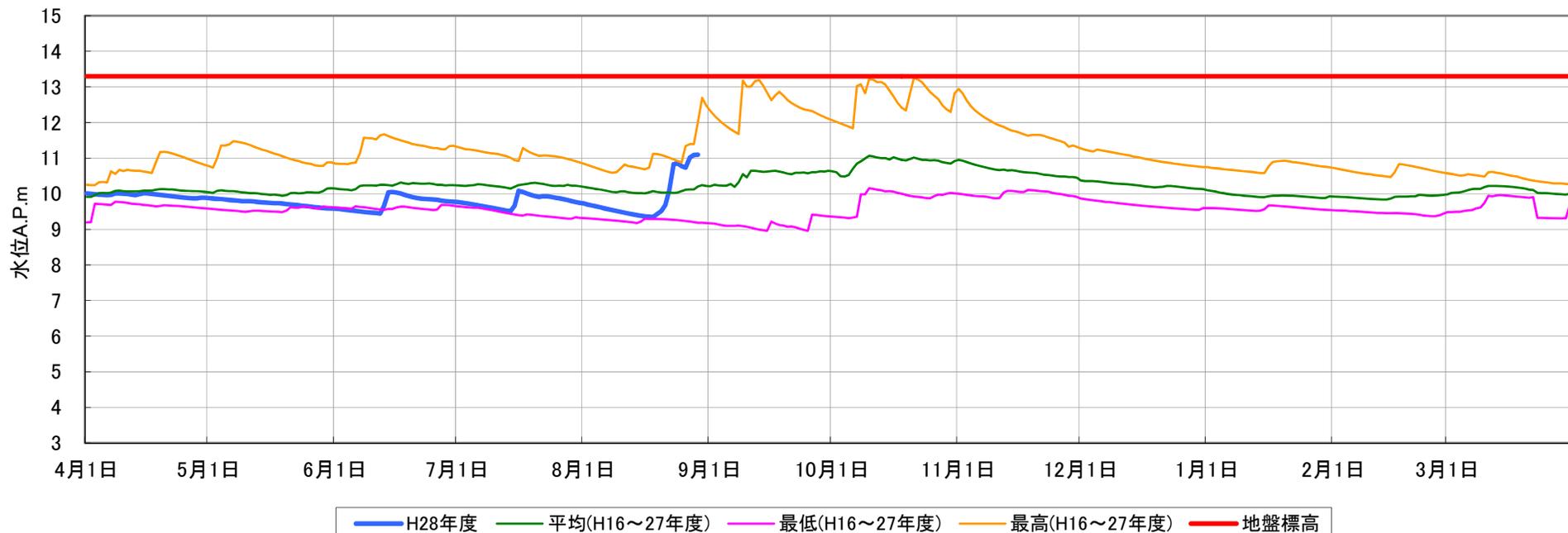
1) 水位・地下水位 ③地下水位 上池 No.1-1

●4月以降はおおむね平均値付近を示しています。8月は降雨により最高値付近まで上昇しました。



地下水位No.1-1

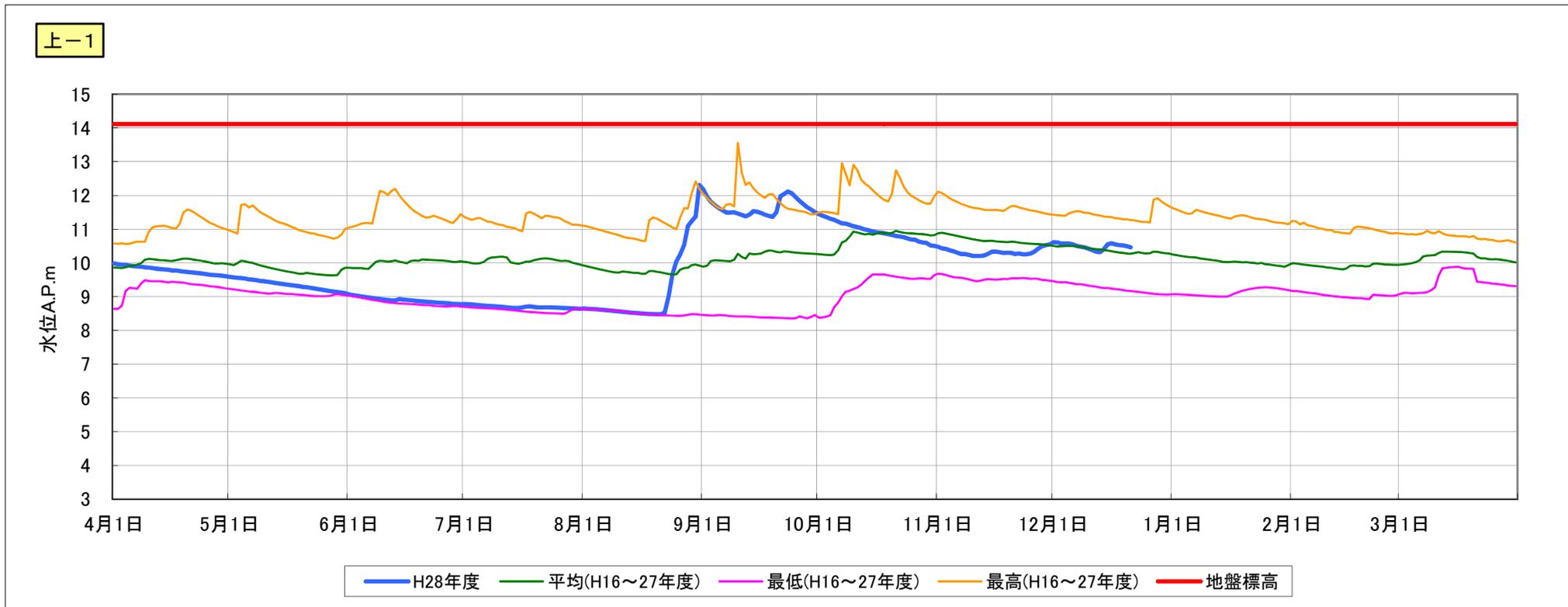
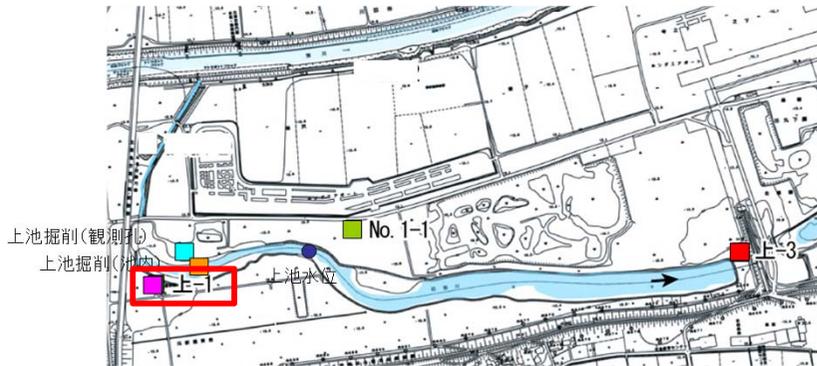
* 水位上昇等により、データが回収できていない期間があります。



3. 太郎右衛門地区全体の調査

1) 水位・地下水位 ③地下水位 上池 上-1

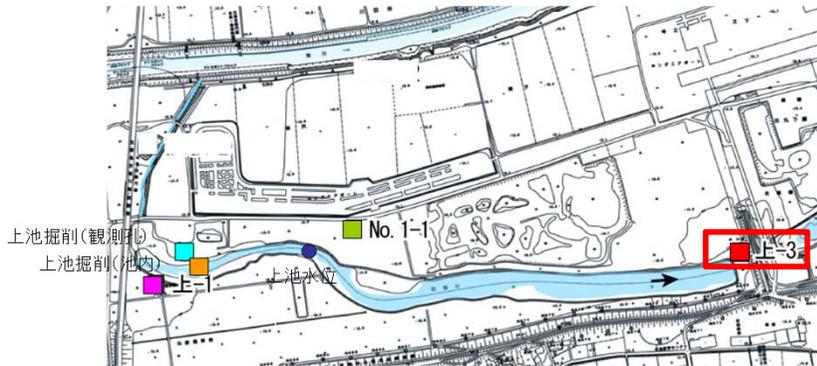
- 4月以降は平均値から最低値付近を示し、8月9月は降雨により水位は上昇し、最高値付近を推移しています。
- 10月以降はおおむね平均値付近を推移しています。



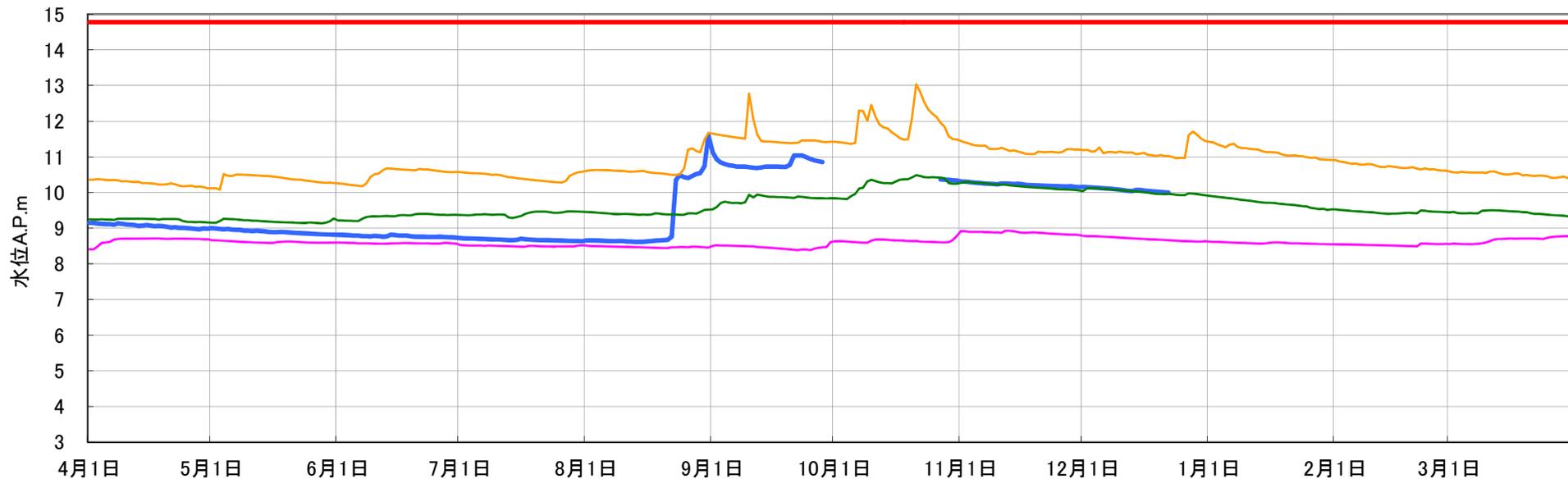
3. 太郎右衛門地区全体の調査

1) 水位・地下水位 ③地下水位 上池 上-3

- 4月以降は平均値から最低値付近を示し、8月9月は降雨により水位は上昇し、最高値付近を推移しています。
- 11月以降は平均値付近を推移しています。



上-3

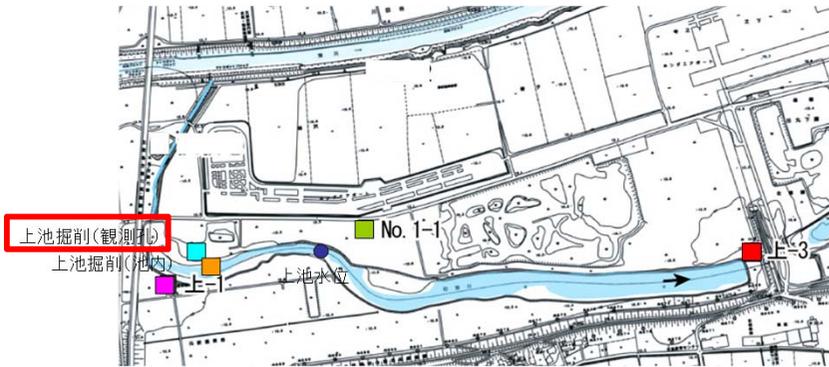


— H28年度 — 平均(H16~27年度) — 最低(H16~27年度) — 最高(H16~27年度) — 地盤標高

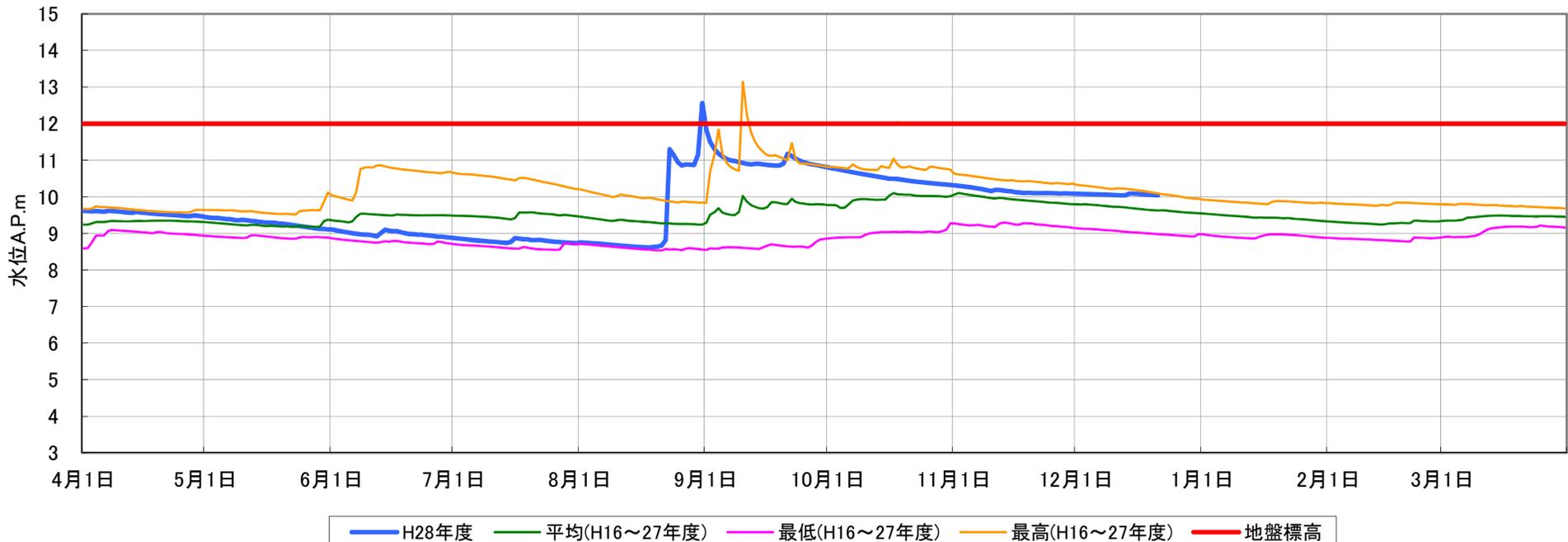
3. 太郎右衛門地区全体の調査

1) 水位・地下水位 ③地下水位 上池 上池掘削（観測孔）

- 4月以降は平均値から最低値付近を示し、8月9月は降雨により水位は上昇し、最高値付近を推移しています。
- 10月以降は徐々に低下して、最高値から平均値付近を推移しています。



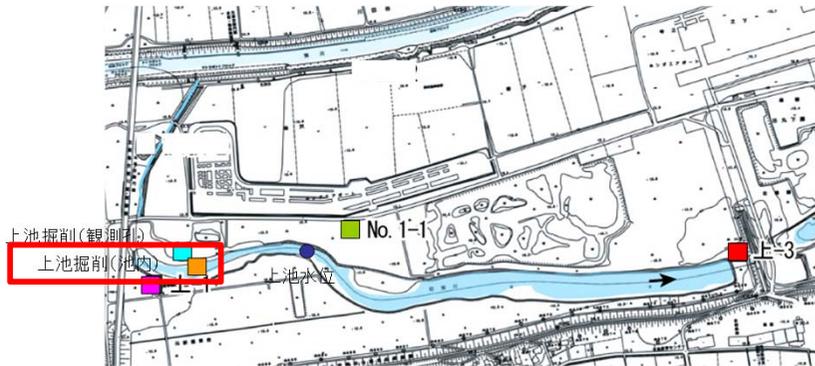
上池掘削地面観測孔



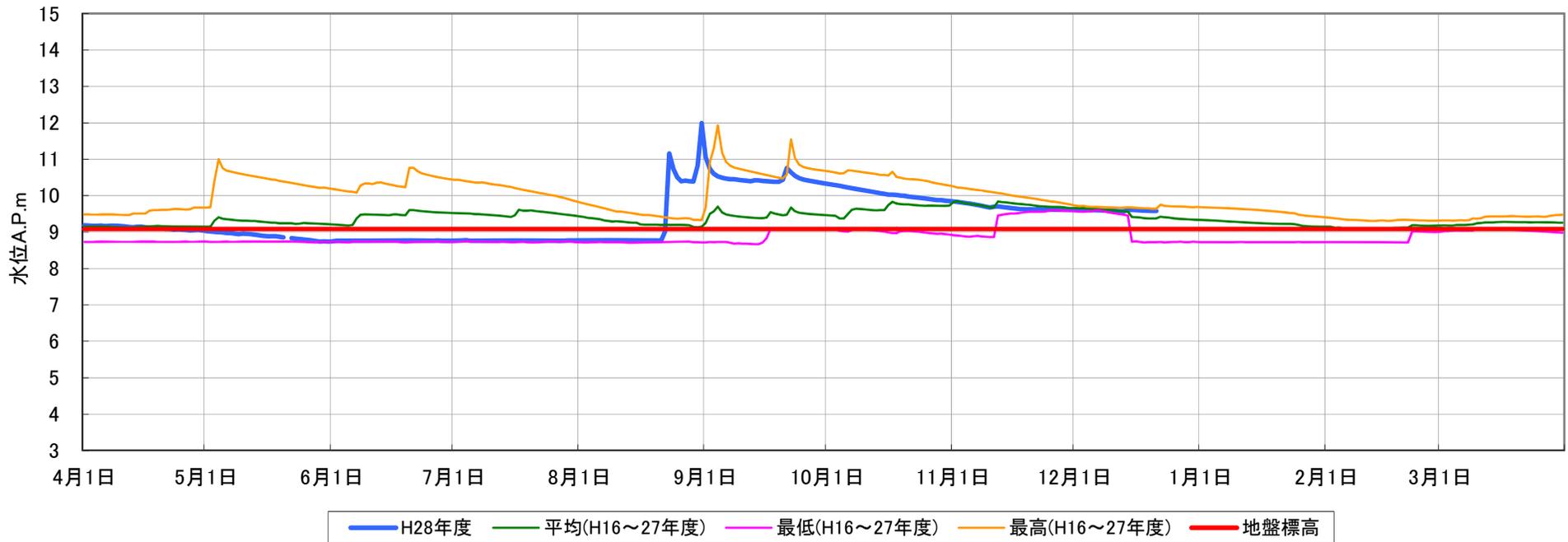
3. 太郎右衛門地区全体の調査

1) 水位・地下水位 ③地下水位 上池 上池掘削（池内）

- 4月は平均値付近を示し、5月には低下し、8月9月は降雨により水位は上昇し、最高値付近を推移しています。
- 10月以降は徐々に低下して、最高値から平均値付近を推移しています。



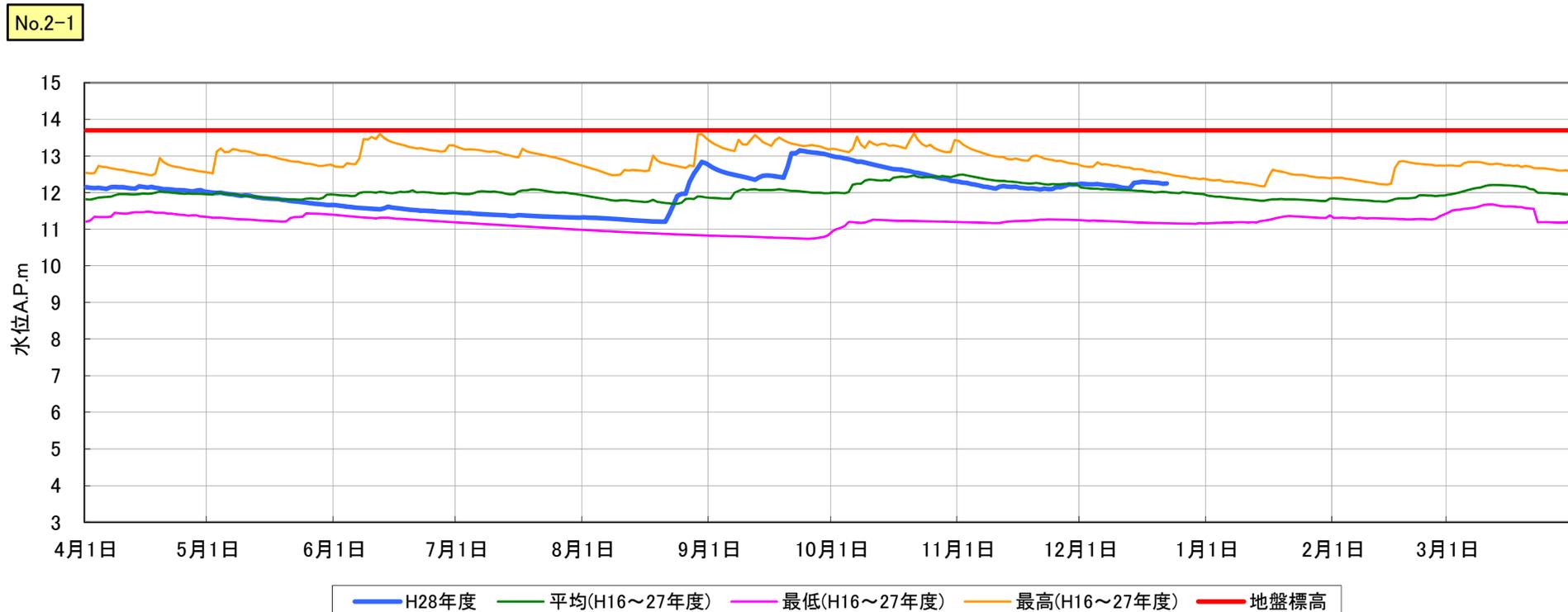
* 水位上昇等により、データが回収できていない期間があります。



3. 太郎右衛門地区全体の調査

1) 水位・地下水位 ③地下水位 中池 No.2-1

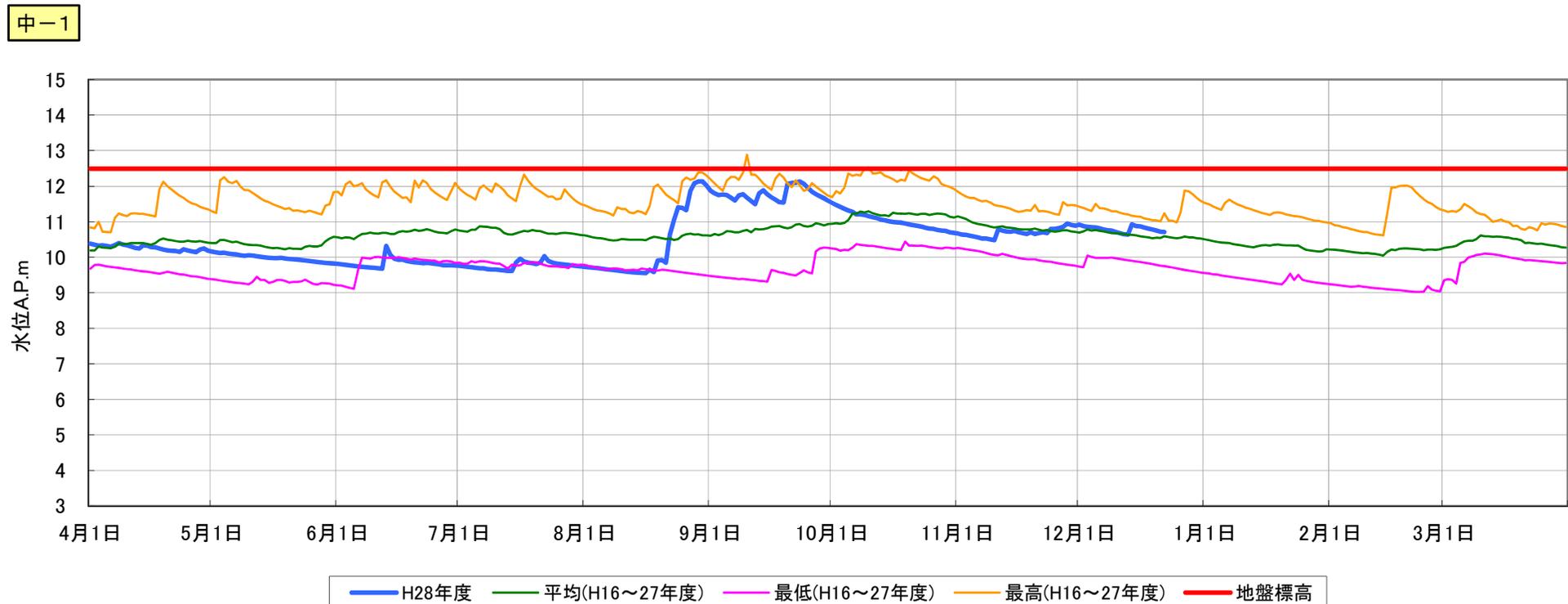
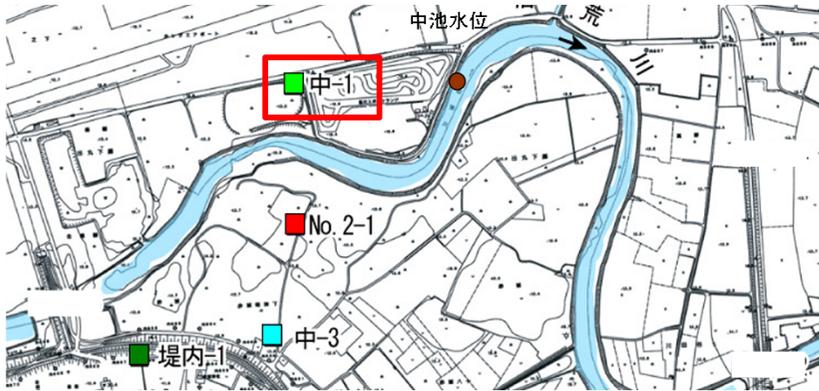
- 4月以降は平均値から最低値付近を示し、8月9月は降雨により水位は上昇し、最高値から平均値付近を示しています。
- 10月以降はおおむね平均値付近を推移しています。



3. 太郎右衛門地区全体の調査

1) 水位・地下水位 ③地下水位 中池 中-1

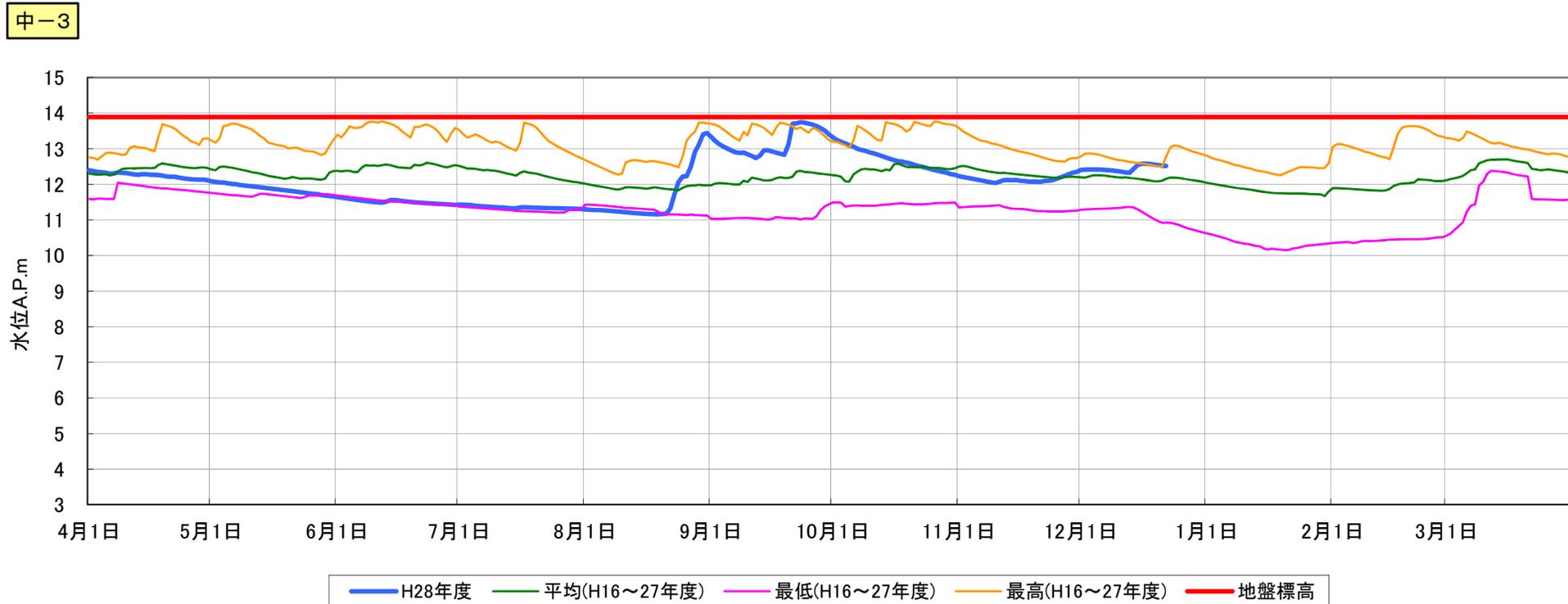
- 4月以降は平均値から最低値付近を示し、8月9月は降雨により水位は上昇し、最高値付近を推移しています。
- 10月以降はおおむね平均値付近を推移しています。



3. 太郎右衛門地区全体の調査

1) 水位・地下水位 ③地下水位 中池 中-3

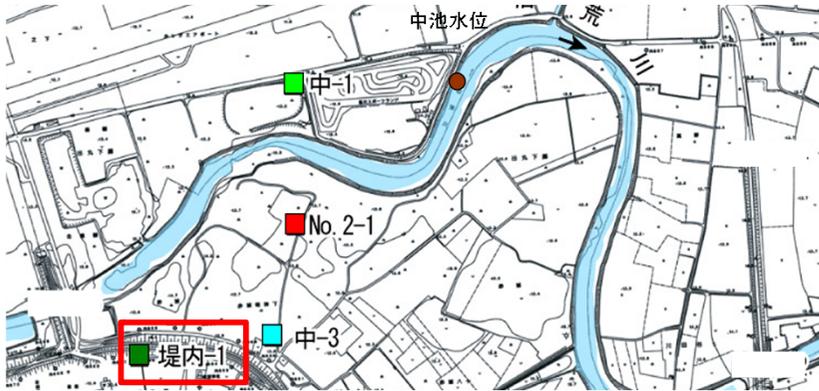
- 4月以降は平均値から最低値付近を示し、8月9月は降雨により水位は上昇し、最高値付近を推移しています。
- 10月以降は水位は低下しますが、高い水位を維持し、平均値から最大値付近を推移しています。



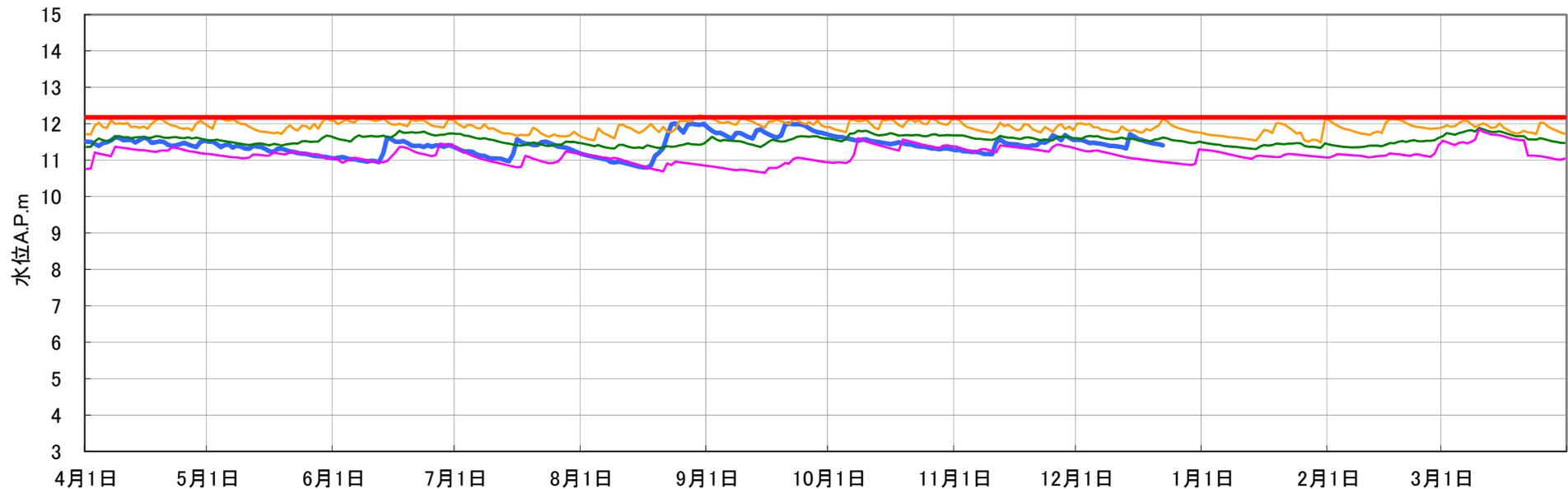
3. 太郎右衛門地区全体の調査

1) 水位・地下水位 ③地下水位 中池 堤内-1

- 4月以降は平均値から最低値付近を示し、8月9月は降雨により水位は上昇し、おおむね最高値から平均値付近を示しています。
- 10月以降はおおむね平均値から最低値付近を推移しています。



堤内-1

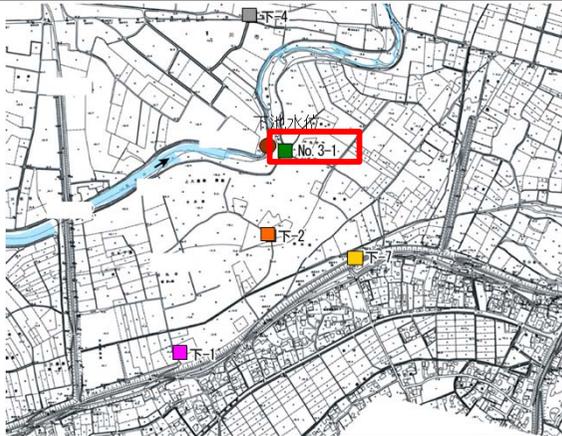


— H28年度 — 平均(H16~27年度) — 最低(H16~27年度) — 最高(H16~27年度) — 地盤標高

3. 太郎右衛門地区全体の調査

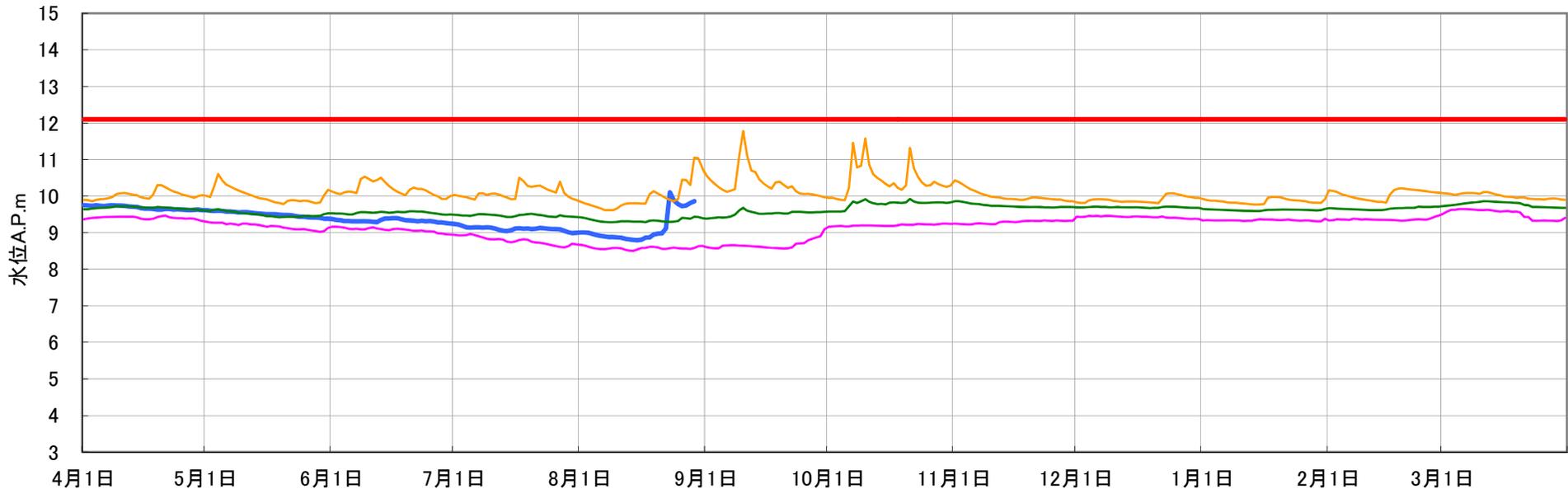
1) 水位・地下水位 ③地下水位 下池 No.3-1

●4月以降はおおむね平均値付近を示し、8月以降は降雨により水位は最高値付近まで上昇しています。



No.3-1

* 水位上昇等により、データが回収できていない期間があります。

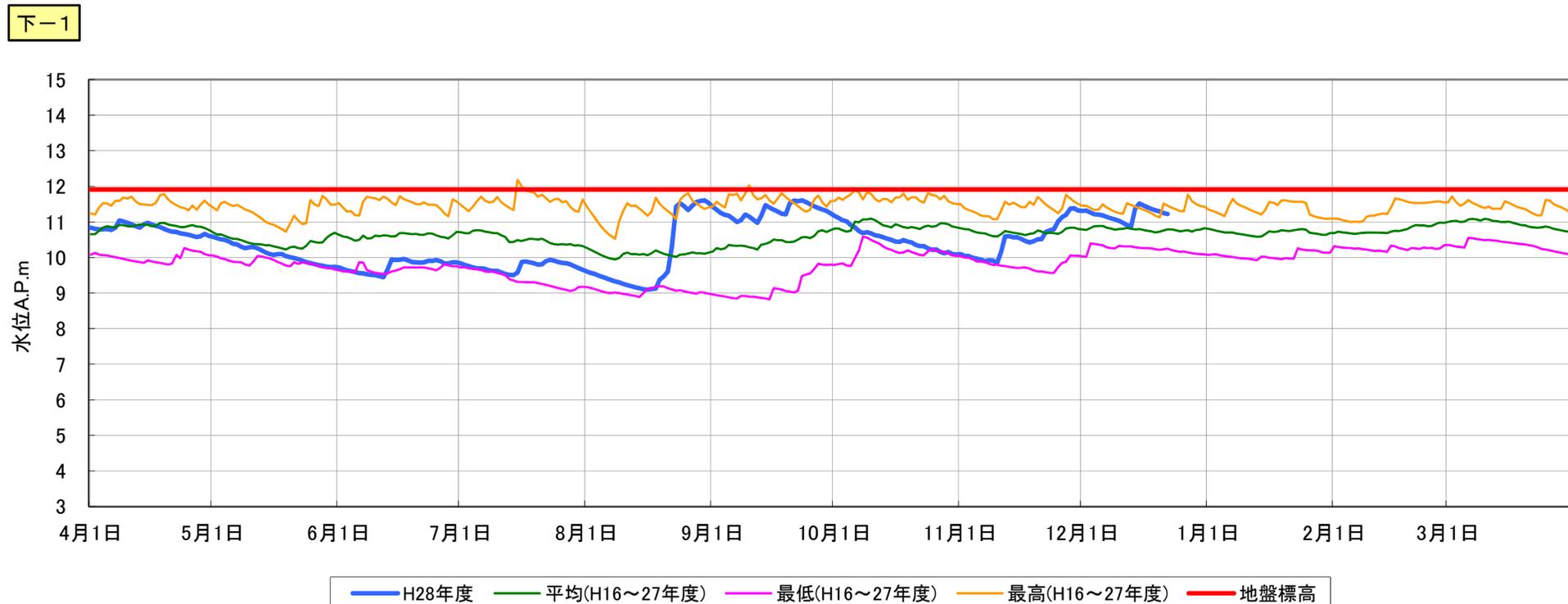
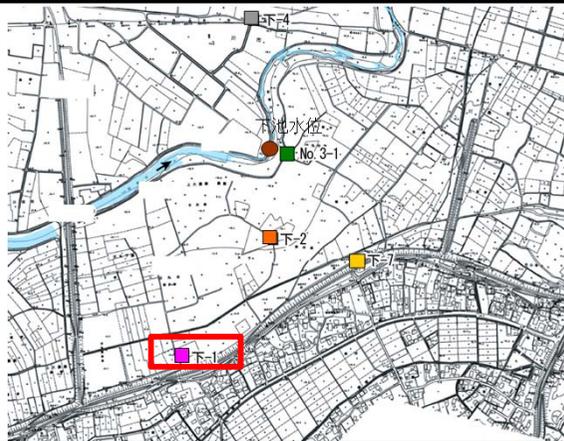


— H28年度 — 平均(H16~27年度) — 最低(H16~27年度) — 最高(H16~27年度) — 地盤標高

3. 太郎右衛門地区全体の調査

1) 水位・地下水位 ③地下水位 下池 下-1

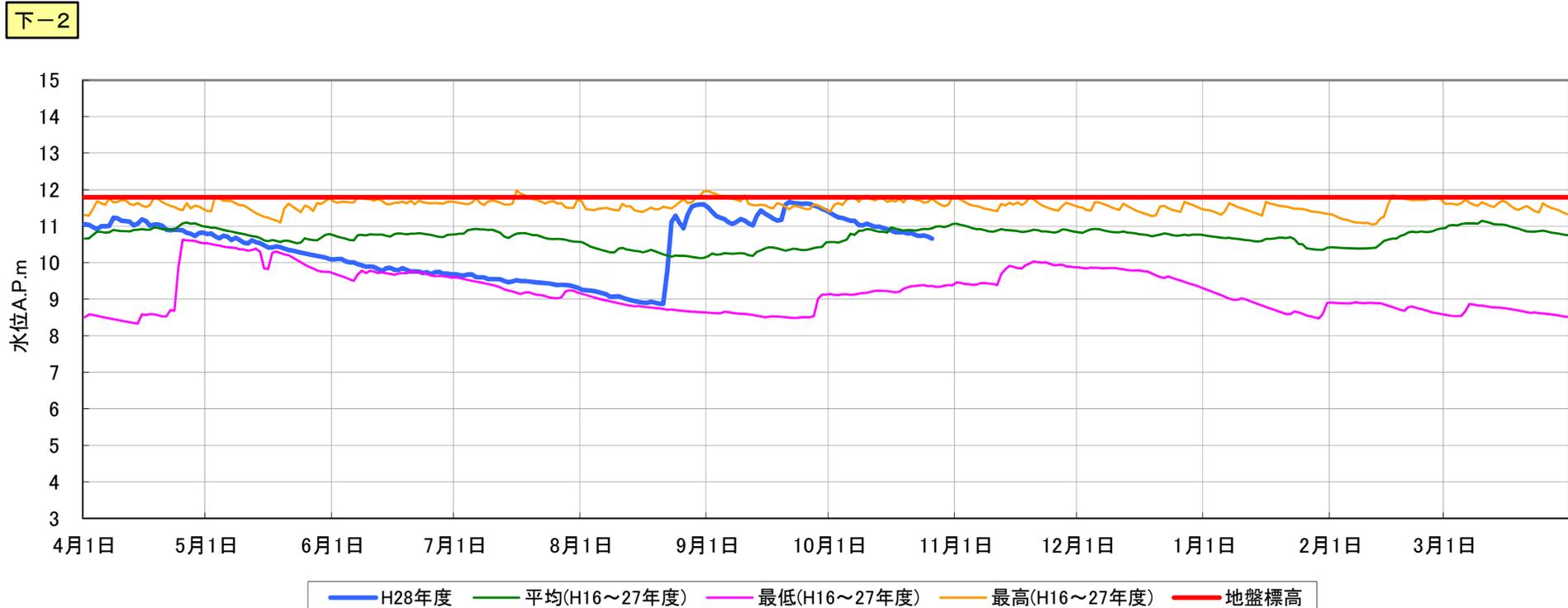
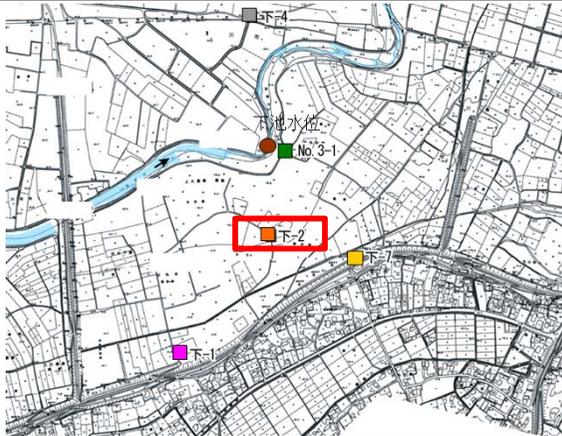
- 4月以降は平均値から最低値付近を示し、8月9月は降雨により水位は上昇し、最高値付近を推移しています。
- 10月以降は水位変動が大きく10月に最低水位付近を示し、12月は最高付近を推移していました。



3. 太郎右衛門地区全体の調査

1) 水位・地下水位 ③地下水位 下池 下-2

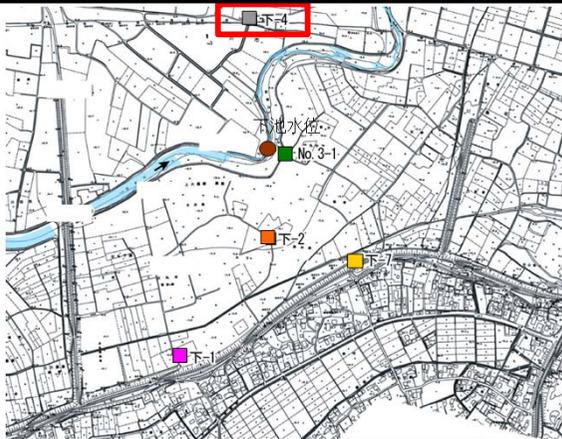
- 4月以降は平均値から最低値付近を示し、8月9月は降雨により水位は上昇し、最高値付近を推移しています。
- 10月は水位は低下し、平均値付近を推移していました。



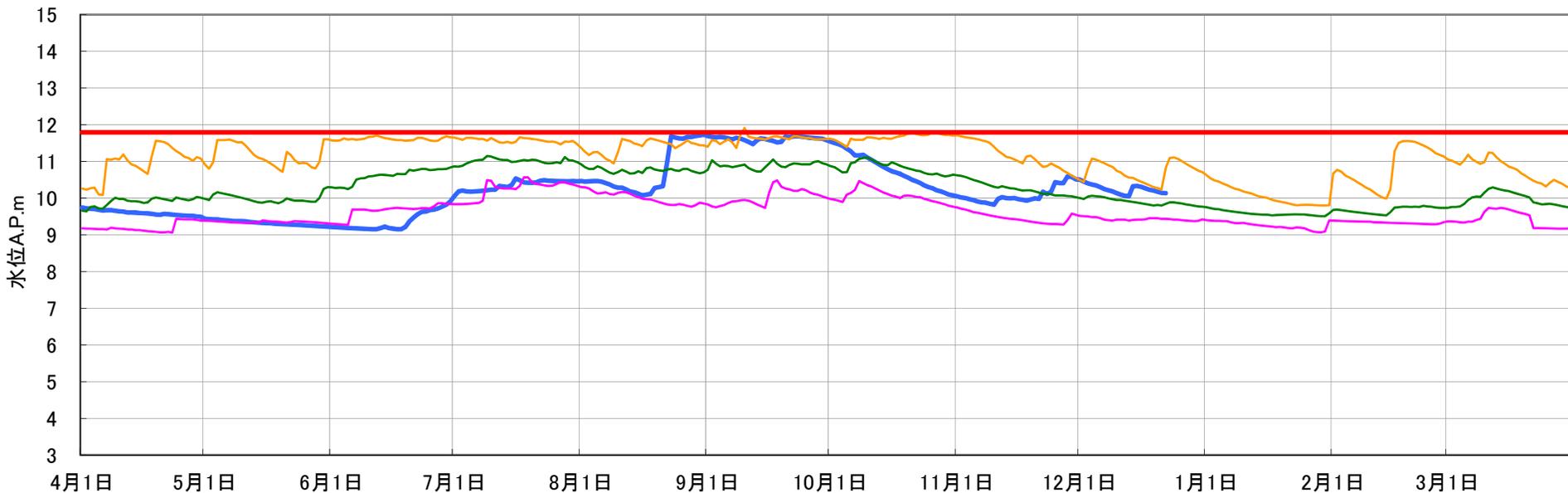
3. 太郎右衛門地区全体の調査

1) 水位・地下水位 ③地下水位 下池 下-4

- 4月以降は平均値から最低値付近を示し、8月9月は降雨により水位は上昇し、最高値付近を推移しています。
- 10月以降は一度平均値を下回りますが、再度上昇し、おおむね平均値から最大値付近を推移しています。



下-4

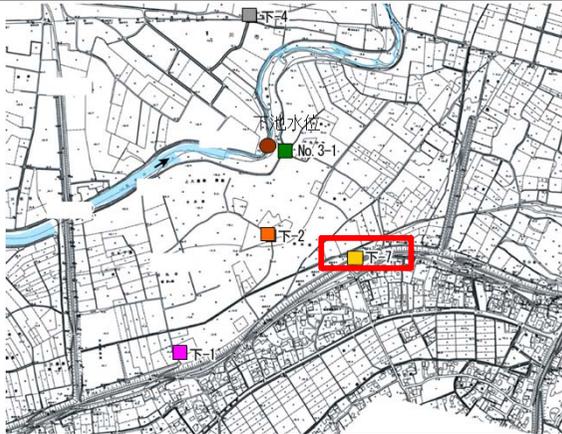


— H28年度 — 平均(H16~27年度) — 最低(H16~27年度) — 最高(H16~27年度) — 地盤標高

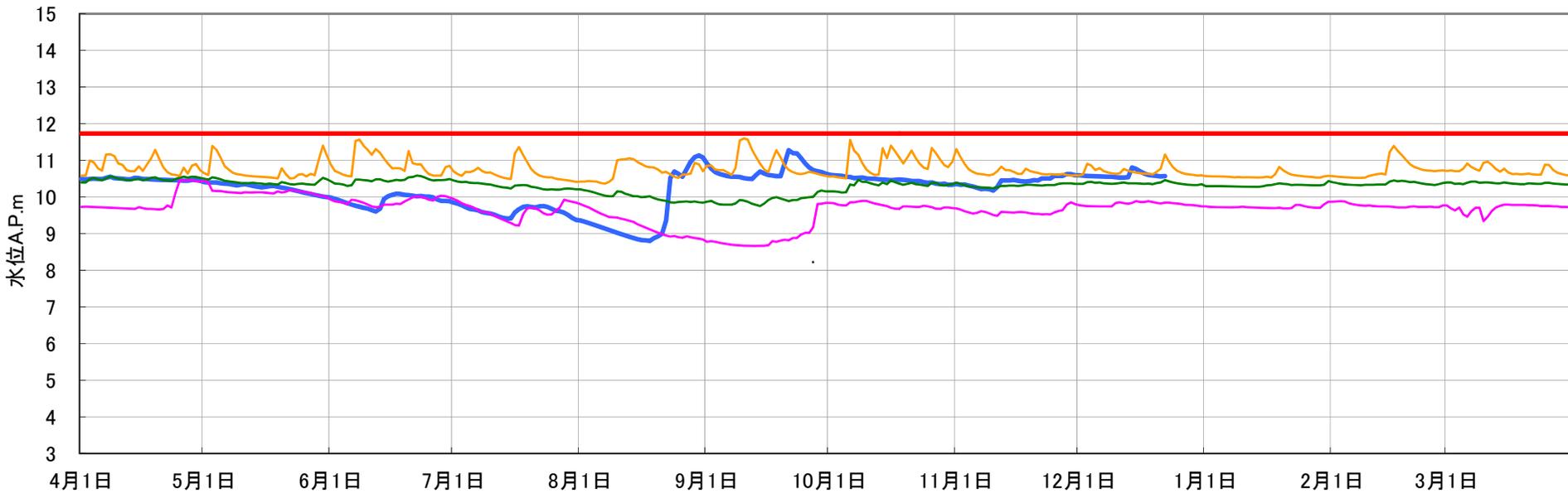
3. 太郎右衛門地区全体の調査

1) 水位・地下水位 ③地下水位 下池 下-7

- 4月以降は平均値から最低値付近を示し、8月9月は降雨により水位は上昇し、最高値付近を推移しています。
- 10月以降は水位を維持し、平均値から最大値付近を推移しています。



下-7

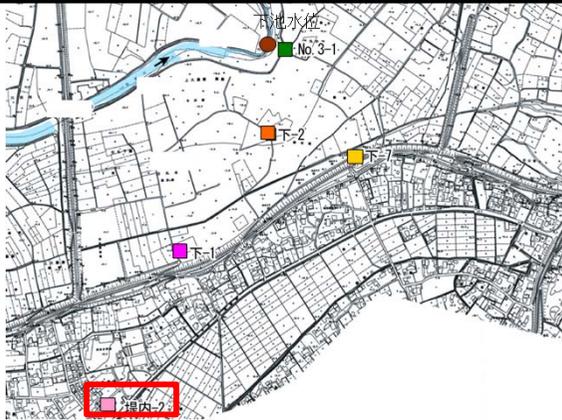


— H28年度 — 平均(H16~27年度) — 最低(H16~27年度) — 最高(H16~27年度) — 地盤標高

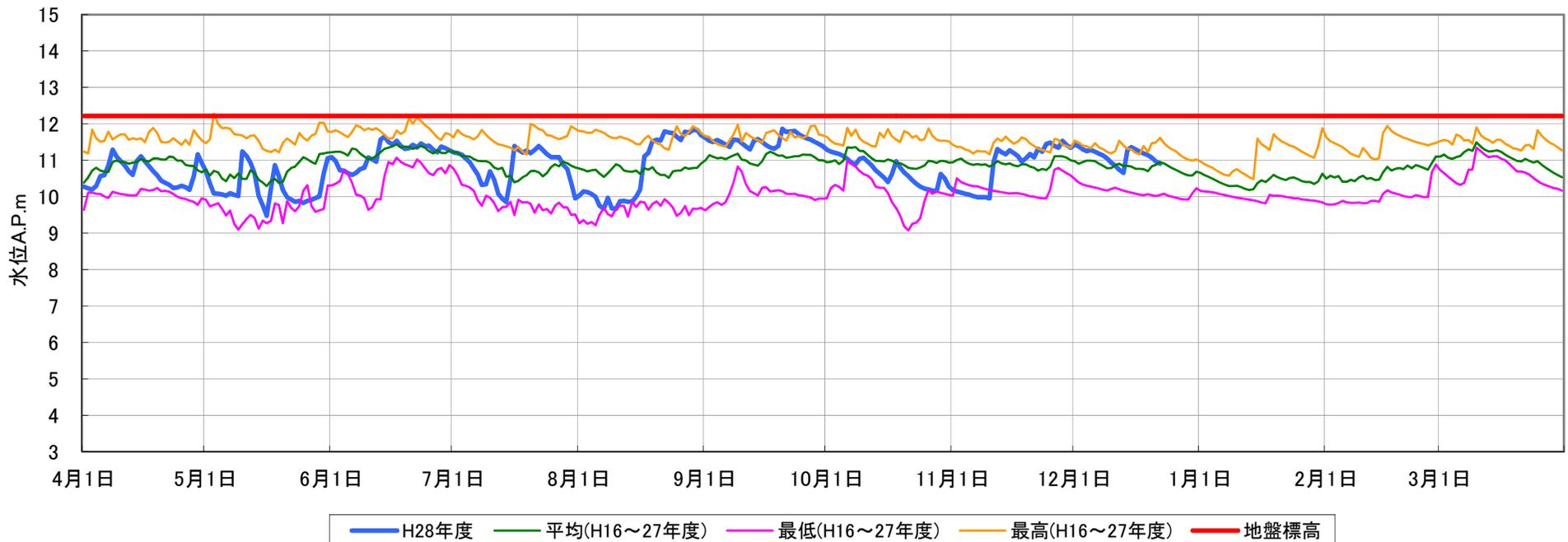
3. 太郎右衛門地区全体の調査

1) 水位・地下水位 ③地下水位 下池 堤内-2

- 4月以降はおおむね平均値から最低値付近を示し、8月9月は降雨により水位は上昇し、最高値付近を推移しています。
- 10月は水位が低下し最低値を推移しますが、11月以降は水位上昇し、おおむね最大値から平均値付近を推移しました。



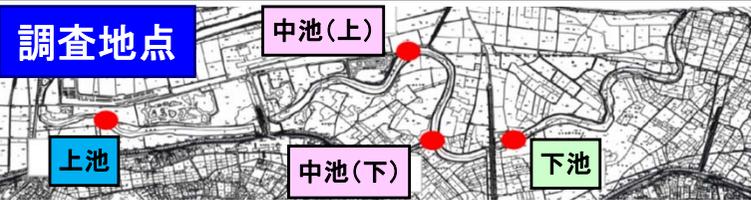
堤内-2



3. 太郎右衛門地区全体の調査

2) 水質

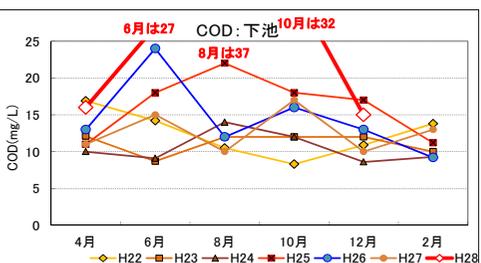
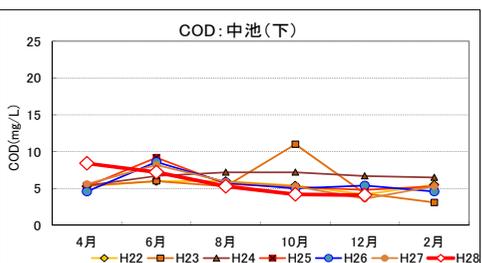
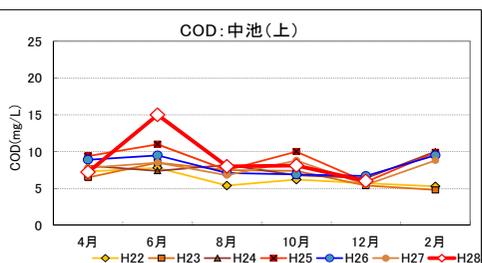
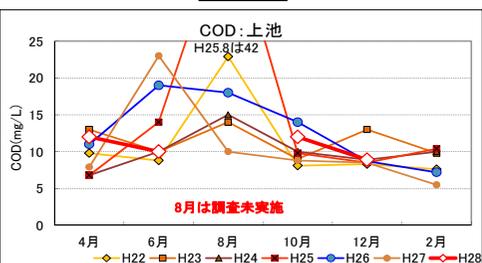
- COD・DO・pHとも、10月・12月はおおむね過年度と同様の濃度と経月変化傾向でした。
- CODは、比較的低い中池で10月は4.2mg/L、12月は4.1mg/Lを示しましたが、その他は6mg/L以上であり、富栄養の状態にあります。下池の10月は例年より高い値でした。
- DOは、上池で10月は3.8mg/Lを、中池で10月は(上)6.3mg/L、(下)4.6mg/Lを示しましたが、各池とも概ね8mg/L以上を示しました。
- pHは、6月、8月は各池とも概ね7.0から8.0を示しました。



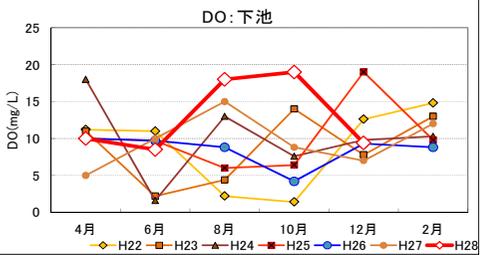
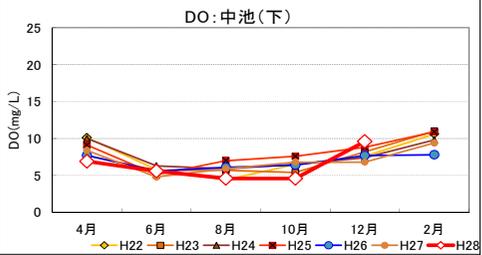
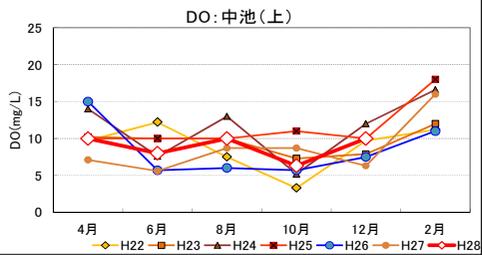
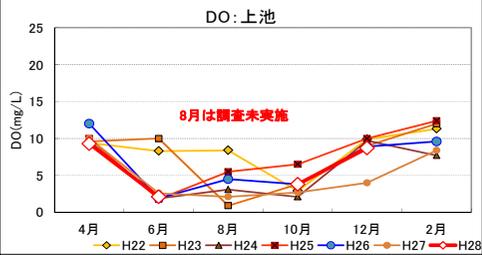
①採水はおよそ午前9時～午後1時の時間帯で実施しています。
 ②分析方法は、CODは過マンガン酸カリウム酸性法、DOはウインクラーアジ化ナトリウム変法、pHはガラス電極法です。

今後の調査予定	
水質	偶数月

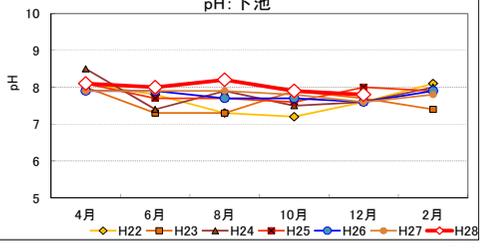
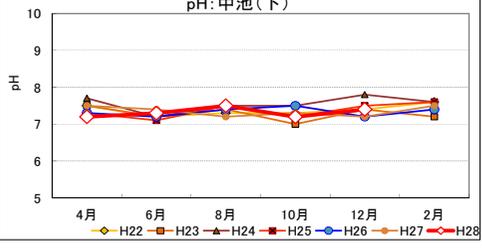
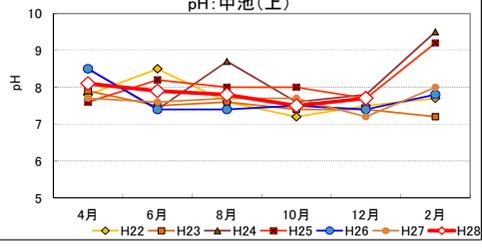
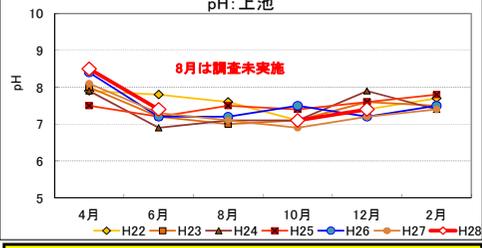
CODの経時変化



DOの経時変化



pHの経時変化



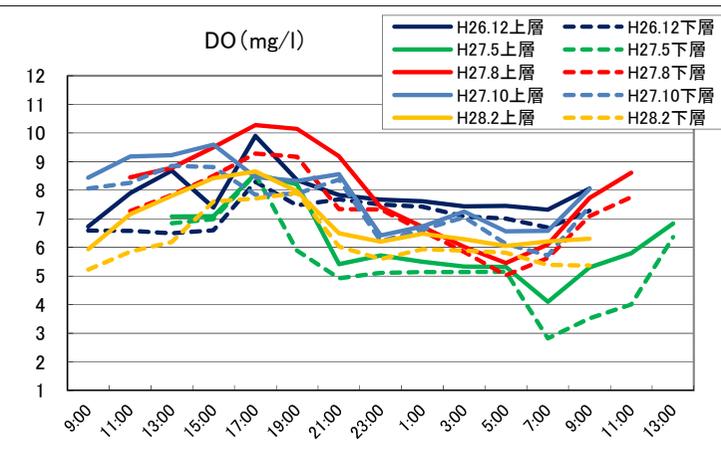
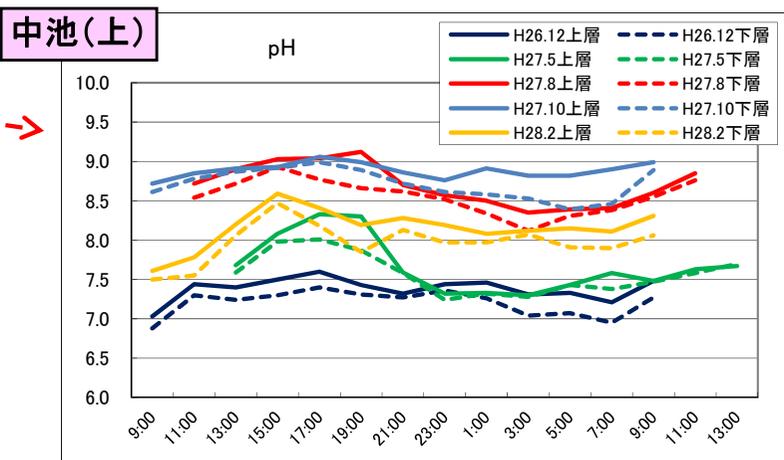
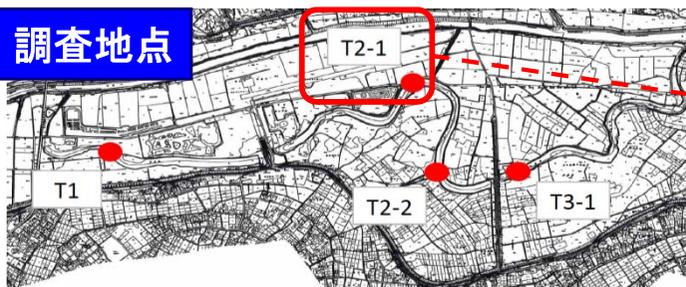
上池の8月は水が無く調査はありません。

3. 太郎右衛門地区全体の調査

2) 水質

●参考 DO・pHの日内変動調査(H26-27実施)

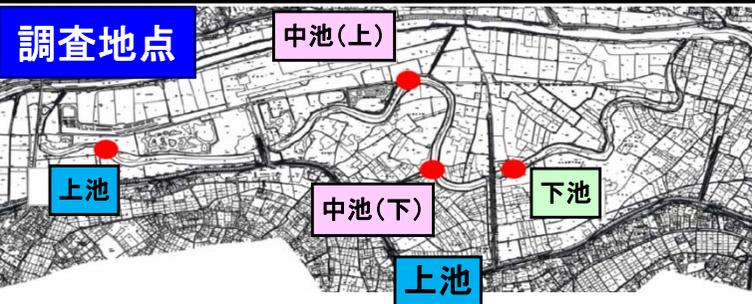
- 計5回、実施しました。
 - 各回、25時間、2時間毎に計13回の機器測定を実施しました。
 - DOの季節変動が大きく水深が深い「中池(上):T2-1」で表層(水面から10cm)と底層(河床から10cm)を計測しました。
- ⇒ DOの表層は、日中は定期調査と同等の7-9mg/Lでしたが、夕方に10mg/L付近まで上昇し、朝方に低下しました。底層は表層より常に低い値でした。
- ⇒ pH、DOともに同じ傾向の変動を示し、大きな日内変動があることが確認されました。



3. 太郎右衛門地区全体の調査

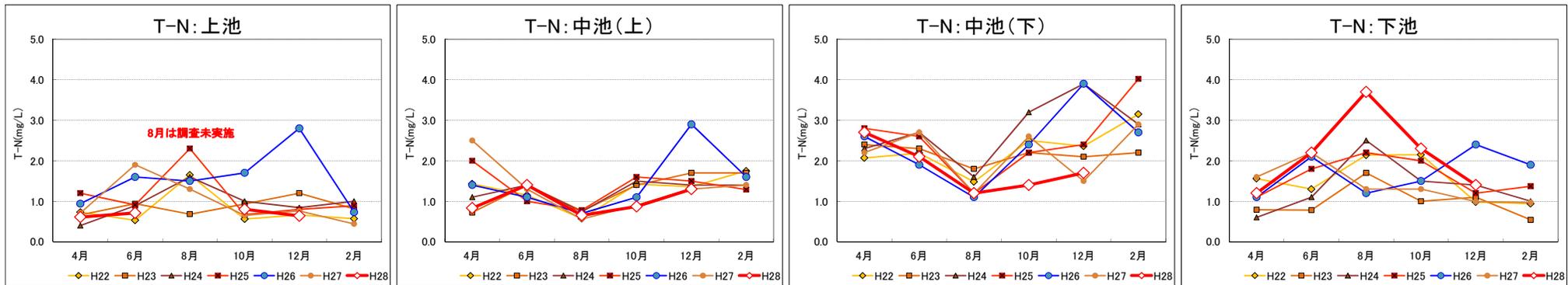
2) 水質

- T-N・T-Pとも、10月・12月はおおむね過年度と同様の濃度と経月変化傾向でした。
- 各池とも、おおむねT-Nで1mg/L以上、T-Pで0.1mg/L付近かそれ以上であり、富栄養の状態にあります。下池は例年より高い値でした。
- 中池では、赤城樋管流入口付近の下流側地点(T2-2)の方の値が継続して高いため、流入水が負荷源になっている可能性が考えられます。

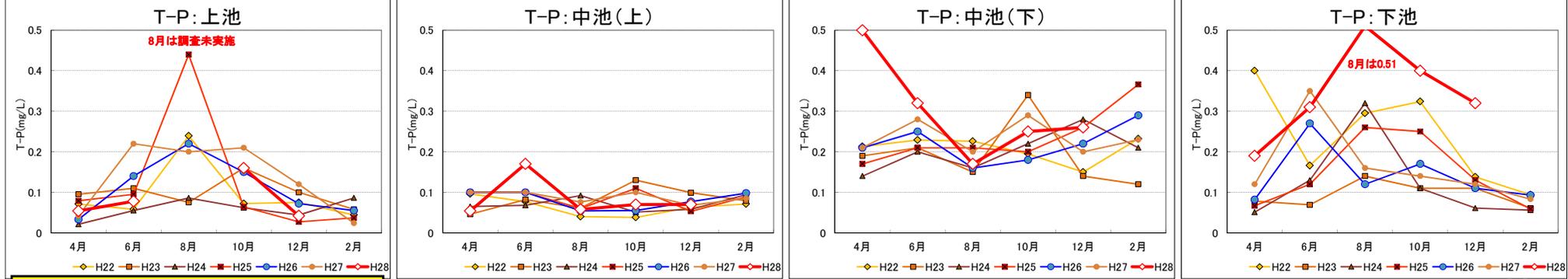


①採水はおよそ午前9時～午後1時の時間帯で実施しています。
 ②分析方法は、T-Nはペルオキシニ硫酸カリウム分解-紫外線吸光光度法、T-Pはペルオキシニ硫酸カリウム分解-吸光光度法です。

T-Nの経時変化



T-Pの経時変化



上池の8月は水が無く調査はありません。

3. 太郎右衛門地区全体の調査

3) 「特定の場所」の調査：上池・湿地（モトクロス場跡地C）写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示しました。



※「特定の場所」はH25年7月から撮影開始

今後の調査予定	
写真撮影	4月、7月、10月 (前回報告) 1月(今回報告)
植生図	秋(前回報告)

H26.4.24



上池④

4月26日

7月26日

10月25日

1月27日



ヤナギ類がこれまでどおり湿地沿いに分布している。

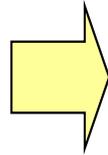
3. 太郎右衛門地区全体の調査

前回報告

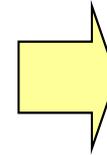
3) 「特定の場所」の調査：上池・湿地（モトクロス場跡地C）植物 重要種・外来種・植生図【秋季】

非公開

H26.10の結果



H27.10の結果



H28.9の結果

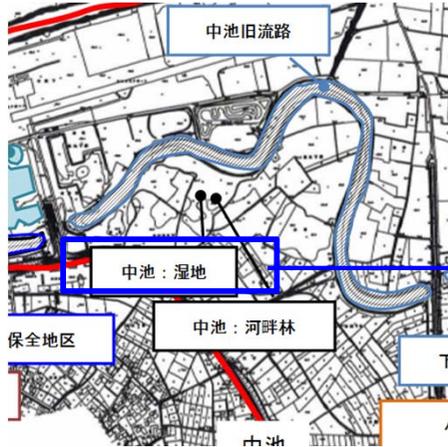
非公開

3. 太郎右衛門地区全体の調査

今回報告

3) 「特定の場所」の調査：中池・湿地 写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



今後の調査予定	
写真撮影	4月、7月、10月 (前回報告) 1月(今回報告)
植生図	秋(前回報告)

H26.4.24



中池①

4月26日

7月26日

10月25日

1月27日



抽水植物が生育し、湿地は維持されているが、水面は無い。

3. 太郎右衛門地区全体の調査

前回報告

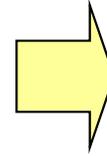
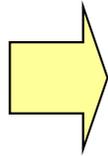
3) 「特定の場所」の調査：中池・湿地 植物 重要種・外来種・植生図【秋季】

非公開

H26.10の結果

H27.10の結果

H28.9の結果

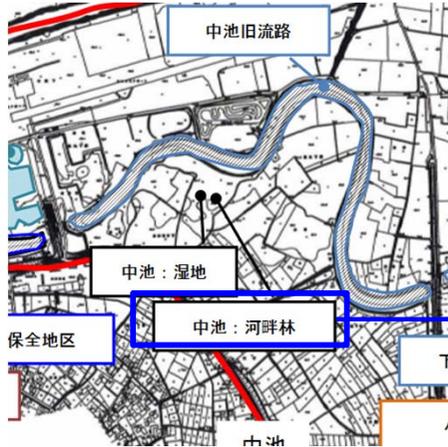


非公開

3. 太郎右衛門地区全体の調査

3) 「特定の場所」の調査：中池・河畔林 写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



今後の調査予定	
写真撮影	4月、7月、10月 (前回報告) 1月(今回報告)

H26.4.24



中池②

4月26日

7月26日

10月25日

1月27日

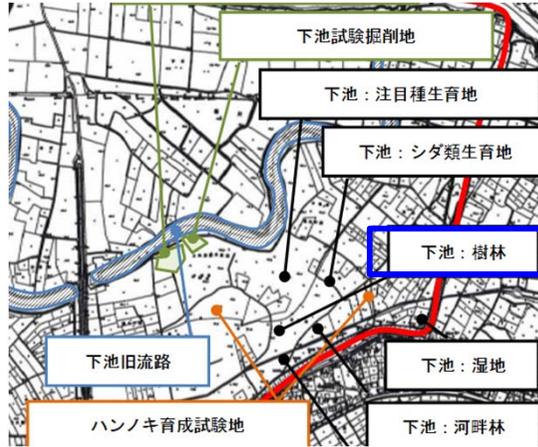


河畔林は継続して分布している。

3. 太郎右衛門地区全体の調査

3) 「特定の場所」の調査：下池・樹林 写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



今後の調査予定	
写真撮影	4月、7月、10月 (前回報告) 1月(今回報告)
植生図	秋(前回報告)



下池②

4月26日

7月26日

10月25日

1月27日



樹林は継続して分布している。

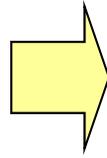
3. 太郎右衛門地区全体の調査

前回報告

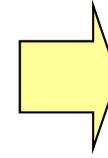
3) 「特定の場所」の調査：下池・樹林 植物 重要種・外来種・植生図【秋季】

非公開

H26.10の結果



H27.10の結果



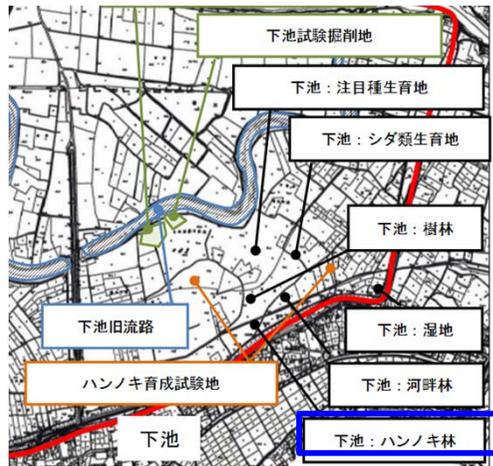
H28.9の結果

非公開

3. 太郎右衛門地区全体の調査

3) 「特定の場所」の調査：下池・ハンノキ林 写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



今後の調査予定	
写真撮影	4月、7月、10月 (前回報告) 1月(今回報告)
植生図	秋(前回報告)

H26.4.24



下池③

4月26日 7月26日 10月25日 1月27日



ハンノキおよび林床の湿生草本類は継続して分布している。

3. 太郎右衛門地区全体の調査

前回報告

3) 「特定の場所」の調査：下池・ハンノキ林 植物 重要種・外来種・植生図【秋季】

非公開

H26.10の結果

H27.10の結果

H28.9の結果

木本層

木本層

木本層

非公開

草本層

草本層

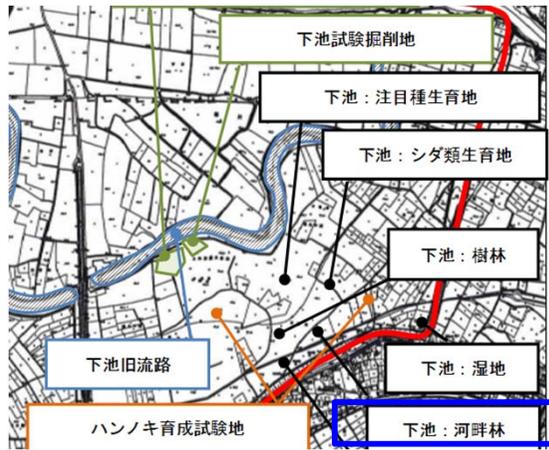
草本層

非公開

3. 太郎右衛門地区全体の調査

3) 「特定の場所」の調査：下池・河畔林 写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



今後の調査予定	
写真撮影	4月、7月、10月 (前回報告) 1月(今回報告)
植生図	秋(前回報告)

H26.4.24



下池④-1

4月26日



7月26日



10月25日



1月27日



河畔林は継続して分布している。

3. 太郎右衛門地区全体の調査

前回報告

3) 「特定の場所」の調査：下池・河畔林 植物 重要種・外来種・植生図【秋季】

非公開

H26.10の結果

H27.10の結果

H28.9の結果

非公開

3. 太郎右衛門地区全体の調査

3) 「特定の場所」の調査：下池・湿地 写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



今後の調査予定	
写真撮影	4月、7月、10月 (前回報告) 1月(今回報告)
植生図	秋(前回報告)

H26.4.24



下池⑤-1-A

4月26日 7月26日 10月25日 1月27日



湿地は乾燥化が進行している。

3. 太郎右衛門地区全体の調査

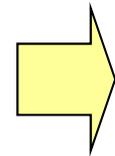
前回報告

3) 「特定の場所」の調査：下池・湿地 植物 重要種・外来種・植生図【秋季】

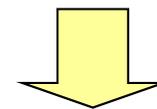
非公開

H26.10の結果

H27.10の結果



非公開



H28.9の結果

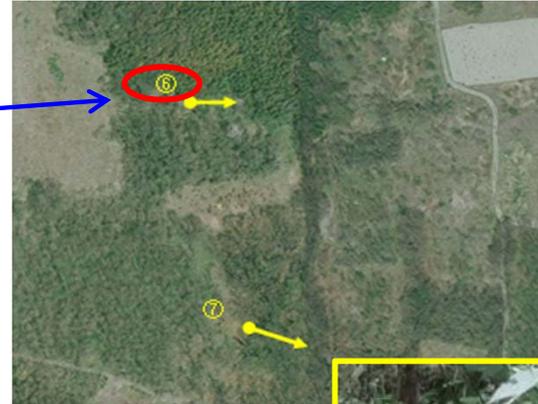
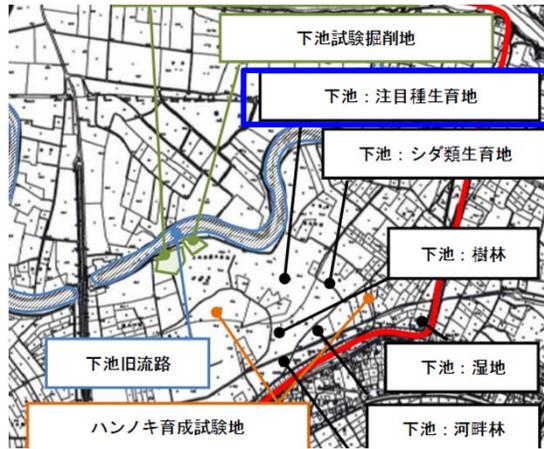
※ここは「民地」であるため、堤防上やあぜ道から確認できる範囲の情報を記録しました。

3. 太郎右衛門地区全体の調査

今回報告

3) 「特定の場所」の調査：下池・注目種生育地 写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



今後の調査予定	
写真撮影	4月、7月、10月 (前回報告) 1月(今回報告)
植生図	秋(前回報告)

H26.4.24



下池⑥

4月26日

7月26日

10月25日

1月27日



フジカンゾウの周辺環境は昨年度までと同様である。

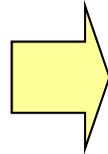
3. 太郎右衛門地区全体の調査

前回報告

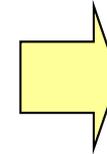
3) 「特定の場所」の調査：下池・注目種生育地 植物 重要種・外来種・植生図【秋季】

非公開

H26.10の結果



H27.10の結果



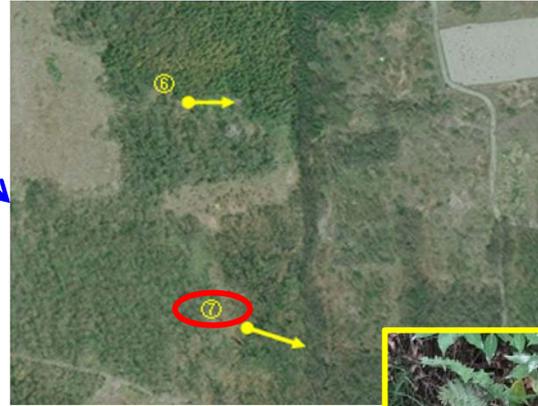
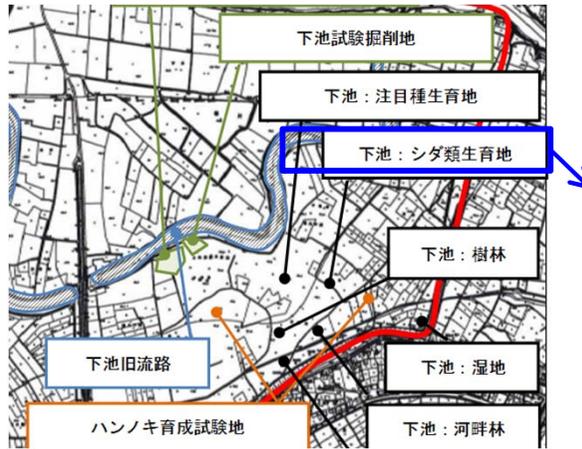
H28.9の結果

非公開

3. 太郎右衛門地区全体の調査

3) 「特定の場所」の調査：下池・シダ類生育地 写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



今後の調査予定	
写真撮影	4月、7月、10月 (前回報告) 1月(今回報告)



下池⑦

4月26日



7月26日



10月25日



1月27日



シダ類が継続して分布している。

3. 太郎右衛門地区全体の調査

今回報告

4) 植生図調査：確認群落 【秋季】

- 分布する群落の構成に大きな変化はありませんでした。
- 人為的な改変箇所や畑地などからオギやセイタカアワダチソウなどの草地へ、草地からハンノキやトウグワ、クヌギなどの樹林地への変化がいくつかの箇所で見られました。下池の移植地付近は野火や工事の進行を反映し「人工裸地」としてあります。



3. 太郎右衛門地区全体の調査

前回報告

5) 両生類・爬虫類・哺乳類調査：確認種・重要種・特定外来種 【春季】

非公開

H28.6

上池

中池

非公開

下池

非公開

非公開

今後の調査予定

両・爬・哺乳類

春(前回報告)、
早春

3. 太郎右衛門地区全体の調査

今回報告

5) 両生類・爬虫類・哺乳類調査：確認種・重要種・特定外来種 【早春季】

非公開

H29.3

上池

中池

非公開

下池

非公開

今後の調査予定

両・爬・哺乳類

春(前回報告)、
早春

非公開

3. 太郎右衛門地区全体の調査

5) 両生類・爬虫類・哺乳類調査：確認種・重要種・特定外来種 【春季】

両生類						
目名	科名	種名	目標種	重要種	外来種	確認形態
無尾	アマガエル	ニホンアマガエル				鳴き声、幼体、幼生
	アカガエル	ニホンアカガエル	○	県RT		幼体
		ウシガエル				特定外来生物・総合(重点)
	ヌマガエル	ヌマガエル			総合(重点)*1	成体、幼生
1目	3科	4種	1種	1種	2種	-

*1 関東以北及び島に侵入したヌマガエル

爬虫類						
目名	科名	種名	目標種	重要種	外来種	確認形態
カメ	イシガメ	クサガメ		県NT2		死体(成体)
	ヌマガメ	ミシシippアカミミガメ			総合(緊急)	成体
有鱗	カナヘビ	ニホンカナヘビ				成体
	ナミヘビ	ヒバカリ		県VU		幼体
2目	4科	4種	0種	2種	1種	-

非公開

哺乳類						
目名	科名	種名	目標種	重要種	外来種	確認形態
モグラ(食虫)	モグラ	アズマモグラ				塚
ウサギ	ウサギ	ウサギ科				糞、足跡
ネズミ(齧歯)	ネズミ	ホンドアカネズミ		県RT		捕獲
ネコ(食肉)	アライグマ	アライグマ			特定外来生物・総合(緊急)	糞、足跡、カメラ
	イヌ	ホンドタヌキ	○	県RT		糞、足跡、カメラ
		ホンドキツネ	○	県RT		カメラ
	イタチ	ホンドイタチ		県RT		糞、足跡
4目	6科	7種	2種	4種	1種	-

※ 種名は河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成27年度生物リスト(河川環境データベース 国土交通省 2015年)に準拠。

【重要種凡例】国：2015、県：2008
 絶滅(EX)、野生絶滅(EW)、絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)、絶滅危惧ⅠA類(CR)、絶滅危惧ⅠB類(EN)、絶滅危惧Ⅱ類(VU)、準絶滅危惧(NT、NT1、NT2)、情報不足(DD)、絶滅のおそれがある地域個体群(LP)、地帯別危惧(RT)
 【外来種凡例】
 外来生物法：2004 特定外来種(特定)
 我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト：2015
 「定着を予防する外来種」侵入予防外来種(定着(侵入))、(定着予防外来種) その他の定着予防外来種(定着(その他))、「総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種)」緊急対策外来種(総合(緊急))、重点対策外来種(総合(重点))、その他の総合対策外来種(総合(その他))、「適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種)」(産業)
 外来種ハンドブック：2002 指定種(○)、その他：家禽

4. 自然再生事業の実施計画に関する調査

前回報告

1) 上池・旧流路（保全範囲）：植物 重要種・外来種【春季】

参考(過年度分)

非公開

H25.5の結果

今後の調査予定

植物相

春(前回報告)

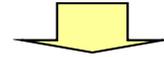
夏(前回報告)

H26.5の結果

非公開

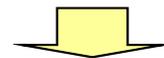
1) 上池・旧流路（保全範囲）：植物 重要種・外来種【春季】

非公開



H27.5の結果

H28.5の結果



非公開

1) 上池・旧流路（保全範囲）：植物 重要種・外来種【夏季】

非公開

H25.8の結果

H26・27夏季（～秋季）は湛水のため調査は実施できませんでした。

H28.8の結果

非公開

1) 上池・旧流路（保全範囲）：植物 植物相【春・夏季】

植物相

非公開

【重要種凡例】国：2015、県：2011

絶滅(EX)、野生絶滅(EW)、絶滅危惧Ⅰ類(GR+EN)、絶滅危惧ⅠA類(GR)、絶滅危惧ⅠB類(EN)、絶滅危惧Ⅱ類(VU)、準絶滅危惧(NT、NT1、NT2)、情報不足(DD)、絶滅のおそれがある地域個体群(LP)、地帯別危惧(RT)

【外来種凡例】

外来生物法：2004 特定外来種(特定)

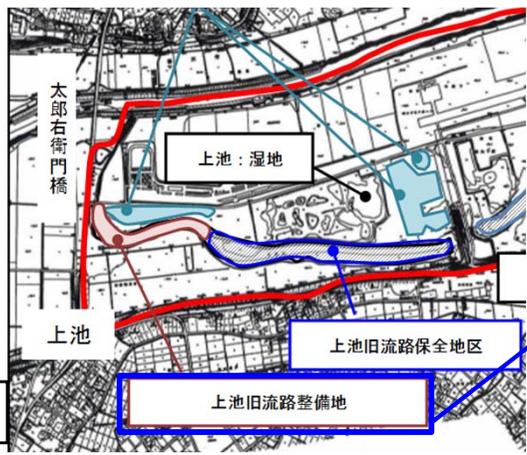
我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト：2015

「定着を予防する外来種」侵入予防外来種(定着(侵入))、(定着予防外来種)その他の定着予防外来種(定着(その他))、「総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種)」緊急対策外来種(総合(緊急))、重点対策外来種(総合(重点))、その他の総合対策外来種(総合(その他))、「適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種)」(産業)

外来種ハンドブック：2002 指定種(○)、その他：植栽・逸出種(植逸)

2) 上池・旧流路整備地：写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



今後の調査予定 (整備地の調査として実施)	
写真撮影	11月まで月1回
植生図	秋(前回報告)
植物相	春(前回報告)
	夏(前回報告)
鳥類	春(前回報告)
魚類	春(前回報告)
両生類	早春

上池①-2-B

H25.4.26



H26.4.24



H27.4.24



4月26日



5月24日



6月24日



7月26日



8月31日



9月26日



10月25日



11月29日



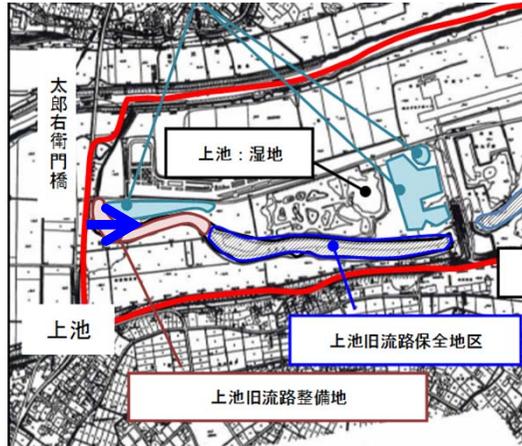
8月台風9号・10号

9月台風16号

4月以降は水面は縮小傾向であったが、8月、9月に流入した河川水により水面は維持されている。

2) 上池・旧流路整備地：写真撮影

参考：太郎右衛門橋から撮影



4月26日



5月24日



6月24日



7月26日



8月31日



9月26日



10月25日



11月29日



8月台風9号・10号

9月台風16号

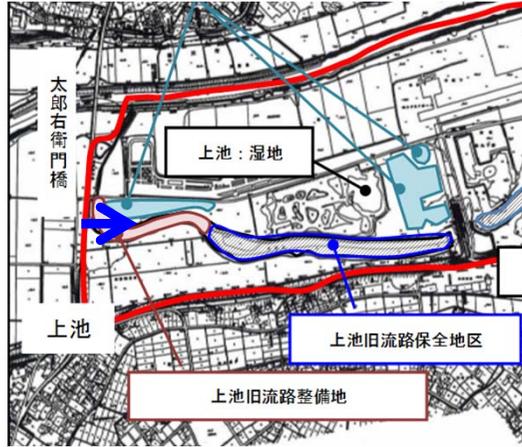
4月以降は水面は縮小傾向であったが、8月、9月に流入した河川水により水面は維持されている。

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

参考

2) 上池・旧流路整備地：写真撮影

参考：太郎右衛門橋から撮影



H25.4.26



H26.4.24



H27.4.24



9月台風18号
10月台風26号

6月前線
10月台風18号

7月台風11号
9月台風17号・18号

流入した河川水により水面が維持されるようになる。

4. 自然再生事業の実施計画に関する調査

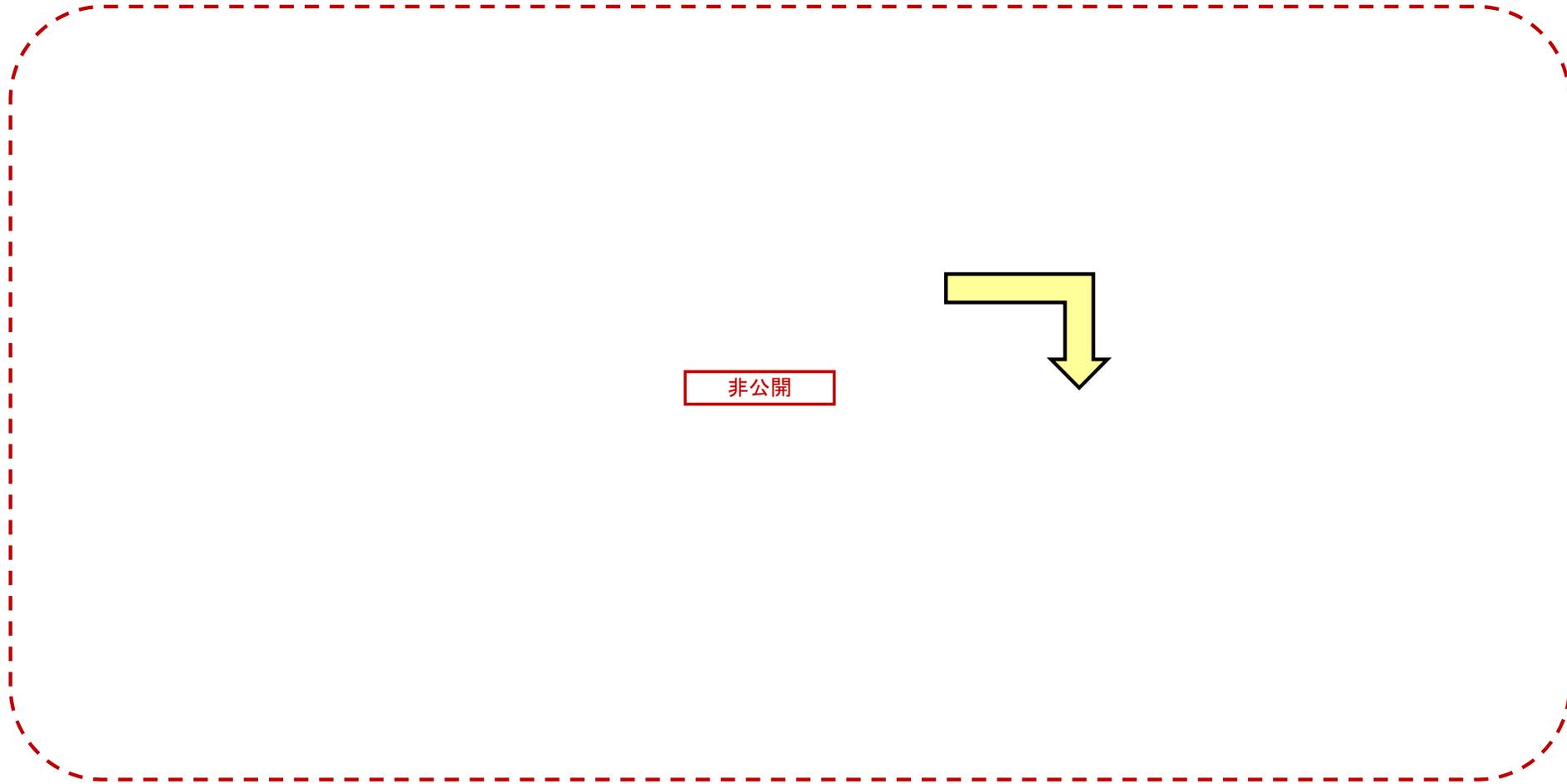
前回報告

2) 上池・旧流路整備地：植物 重要種・外来種【春季】

参考(過年度分)

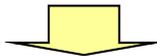
非公開

H25.5の結果



非公開

H26.5の結果

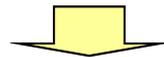


4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

前回報告

参考(過年度分)

2) 上池・旧流路整備地：植物 重要種・外来種【春季】



H27.5の結果

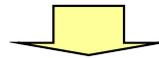
非公開



2) 上池・旧流路整備地：植物 重要種・外来種【春季】

非公開

H28.5の結果



非公開

4. 自然再生事業の実施計画に関する調査

前回報告

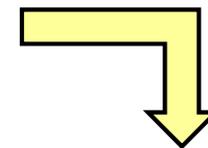
参考(過年度分)

2) 上池・旧流路整備地：植物 重要種・外来種【夏季】

H25.8の結果

非公開

H26.8の結果



4. 自然再生事業の実施計画に関する調査

前回報告

参考(過年度分)

2) 上池・旧流路整備地：植物 重要種・外来種【夏季】

H27.8の結果

非公開

2) 上池・旧流路整備地：植物 重要種・外来種【夏季】

非公開

H28.8の結果

非公開

2) 上池・旧流路整備地：植物 確認種【春・夏季】

植物相

非公開

【重要種凡例】国：2015、県：2011

絶滅(EX)、野生絶滅(EW)、絶滅危惧 I 類(GR+EN)、絶滅危惧 I A類(GR)、絶滅危惧 I B類(EN)、絶滅危惧 II 類(VU)、準絶滅危惧(NT、NT1、NT2)、情報不足(DD)、絶滅のおそれがある地域個体群(LP)、地帯別危惧(RT)

【外来種凡例】

外来生物法:2004 特定外来種(特定)

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト：2015

「定着を予防する外来種」侵入予防外来種(定着(侵入))、(定着予防外来種)その他の定着予防外来種(定着(その他))、「総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種)」緊急対策外来種(総合(緊急))、重点対策外来種(総合(重点))、その他の総合対策外来種(総合(その他))、「適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種)」(産業)

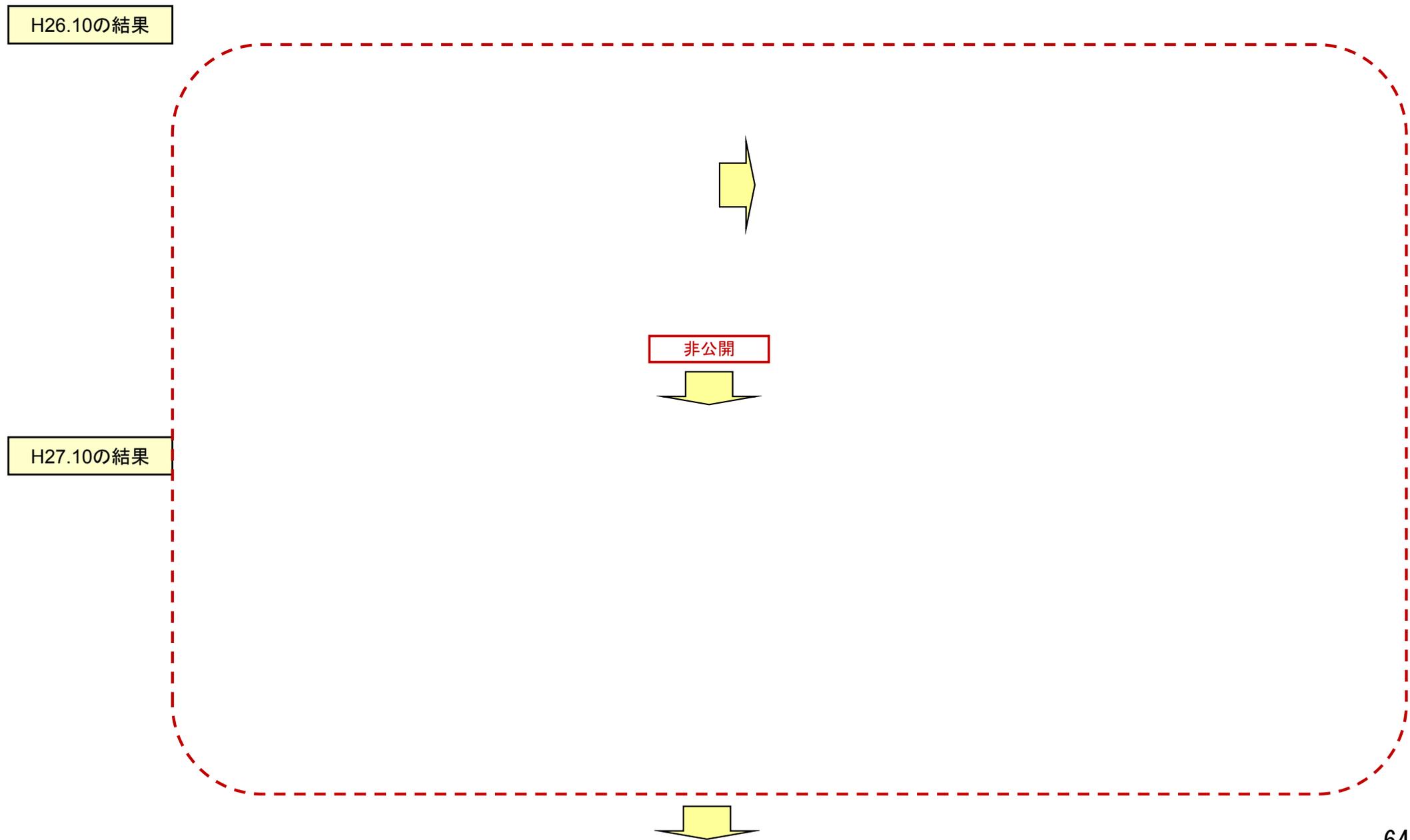
外来種ハンドブック：2002 指定種(○)、その他植栽・逸出種：(○)

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

前回報告

参考(過年度分)

2) 上池・旧流路整備地：植物 植生図【秋季】



2) 上池・旧流路整備地：植物 植生図【秋季】

非公開

H28.9の結果

非公開

2) 上池・旧流路整備地：鳥類 確認種

非公開

非公開

【重要種凡例】国：2015、県：2008

絶滅(EX)、野生絶滅(EW)、絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)、絶滅危惧ⅠA類(CR)、絶滅危惧ⅠB類(EN)、絶滅危惧Ⅱ類(VU)、準絶滅危惧(NT、NT1、NT2)、情報不足(DD)、絶滅のおそれがある地域個体群(LP)、地帯別危惧(RT)

【外来種凡例】

外来生物法：2004 特定外来種(特定)

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト：2015

「定着を予防する外来種」侵入予防外来種(定着(侵入))、(定着予防外来種) その他の定着予防外来種(定着(その他))、「総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種)」緊急対策外来種(総合(緊急))、重点対策外来種(総合(重点))、その他の総合対策外来種(総合(その他))、「適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種)」(産業)

外来種ハンドブック：2002 指定種(O)、その他：家禽

2) 上池・旧流路整備地：魚類 確認種

非公開

非公開

【重要種凡例】国：2015、県：2008
絶滅(EX)、野生絶滅(EW)、絶滅危惧Ⅰ類(CR+EN)、絶滅危惧ⅠA類(CR)、絶滅危惧ⅠB類(EN)、絶滅危惧Ⅱ類(VU)、準絶滅危惧(NT、NT1、NT2)、情報不足(DD)、絶滅のおそれがある地域個体群(LP)、地帯別危惧(RT)

【外来種凡例】
外来生物法：2004 特定外来種(特定)
我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト：2015
「定着を予防する外来種」侵入予防外来種(定着(侵入))、(定着予防外来種)その他の定着予防外来種(定着(その他))、「総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種)」緊急対策外来種(総合(緊急))、重点対策外来種(総合(重点))、その他の総合対策外来種(総合(その他))、「適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種)」(産業)
外来種ハンドブック：2002 指定種(○)、その他：国内移入種(国内)

2) 上池・旧流路整備地：アカガエル類の産卵状況

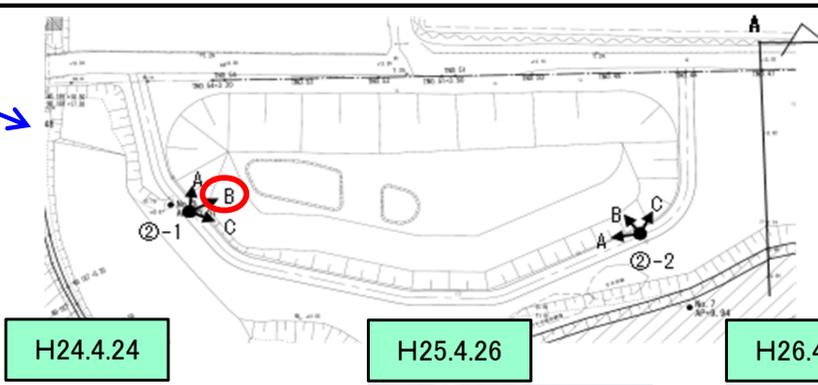
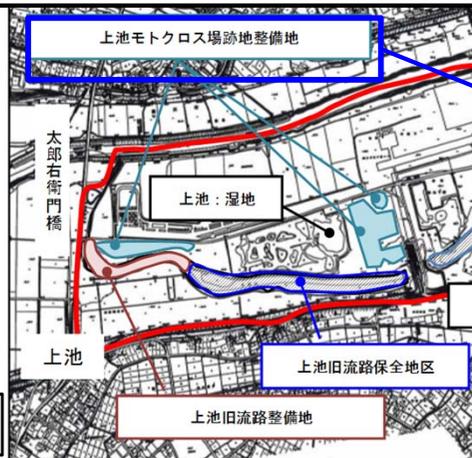
非公開

非公開

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H23整備：写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



今後の調査予定 (整備地の調査として実施)	
写真撮影	11月まで月1回
植生図	秋(前回報告)
植物相	春(前回報告)夏(前回報告)
鳥類	春(前回報告)
両生類	早春

H24.4.24



H25.4.26



H26.4.24



H27.4.24



H24年はC方向で撮影

4月26日



5月24日



6月24日



7月26日



8月31日



9月26日



10月25日



11月29日



斜面部はオギ等、底面部はヨシ等が生育している。
8月以降は水面が形成され湿地が維持されている。

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

前回報告

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H23整備：植物 重要種・外来種【春季】

非公開

H25.5の結果

H27.5の結果

非公開

H26.5の結果

H28.5の結果

非公開

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H23整備：植物 重要種・外来種【夏季】

非公開

H25.8の結果

H27.8の結果

非公開

H26.8の結果

H28.8の結果

非公開

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H23整備：植物 植生図【秋季】

非公開

H26.10の結果

H27.10の結果

非公開

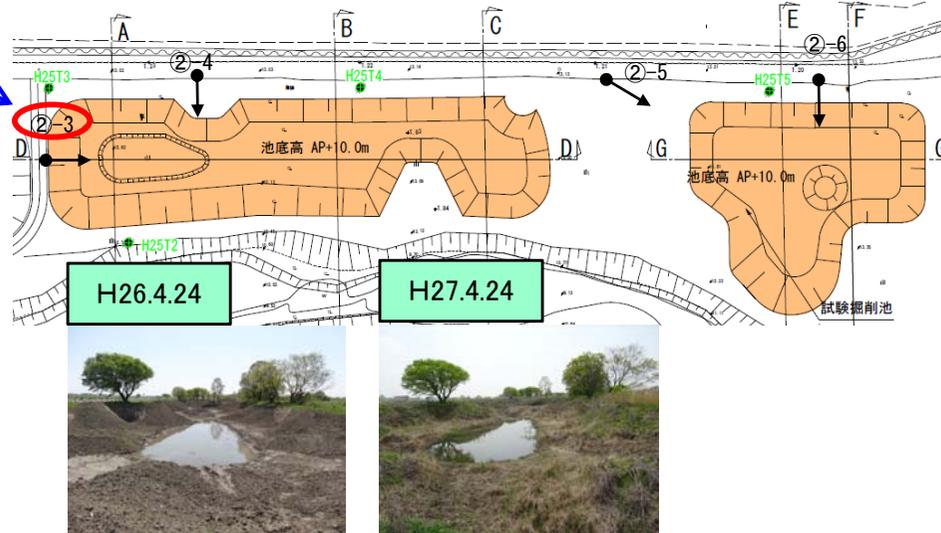
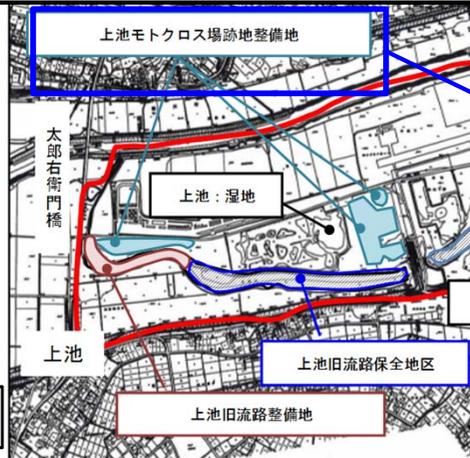
H28.9の結果

非公開

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H25整備：写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



今後の調査予定 (整備地の調査として実施)	
写真撮影	11月まで月1回
植生図	秋(前回報告)
植物相	春(前回報告) 夏(前回報告)
鳥類	春(前回報告)
両生類	早春

上池②-3

4月26日



5月24日



6月24日



7月26日



8月31日



9月26日



10月25日



11月29日



湿地が維持されている。

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

前回報告

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H25整備：植物 重要種・外来種【春季】

参考
(過年度分)

非公開

H26.5の結果

非公開

H27.5の結果

非公開

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H25整備：植物 重要種・外来種【春季】

非公開

H28.5の結果

非公開

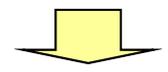
4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

前回報告

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H25整備：植物 重要種・外来種【夏季】

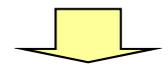
参考
(過年度分)

H26.8の結果



非公開

H27.8の結果



3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H25整備：植物 重要種・外来種【夏季】

非公開

H28.8の結果

非公開

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H25整備：植物 植生図【秋季】

非公開

H26.10の結果

H27.10の結果

H28.9の結果

非公開

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H23・25整備：植物 確認種【春・夏季】

植物相

既存部はH23整備
拡張部はH25整備

【重要種凡例】
国：2015、県：2011
絶滅危惧Ⅱ類(VU)、準絶滅危惧(NT、NT1、NT2)、

【外来種凡例】
外来生物法：2004 特定外来種(特定)
我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト：2015
「定着を予防する外来種」侵入予防外来種(定着(侵入))、(定着予防外来種)その他の定着予防外来種(定着(その他))、「総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種)」緊急対策外来種(総合(緊急))、重点対策外来種(総合(重点))、その他の総合対策外来種(総合(その他))、
「適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種)」(産業)
外来種ハンドブック：2002
指定種(○)、その他植栽・逸出種：(○)

非公開

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H23・H25整備：鳥類 確認種

非公開

非公開

【重要種凡例】国：2015、県：2008

絶滅(EX)、野生絶滅(EW)、絶滅危惧Ⅰ類(GR+EN)、絶滅危惧ⅠA類(GR)、絶滅危惧ⅠB類(EN)、絶滅危惧Ⅱ類(VU)、準絶滅危惧(NT、NT1、NT2)、情報不足(DD)、絶滅のおそれがある地域個体群(LP)、地帯別危惧(RT)

【外来種凡例】

外来生物法：2004 特定外来種(特定)

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト：2015

「定着を予防する外来種」侵入予防外来種(定着(侵入))、(定着予防外来種)その他の定着予防外来種(定着(その他))、「総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種)」緊急対策外来種(総合(緊急))、重点対策外来種(総合(重点))、その他の総合対策外来種(総合(その他))、「適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種)」(産業)

外来種ハンドブック：2002 指定種(○)、その他：家禽

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

今回報告

3) 上池・モトクロス場跡地整備地A H23・H25整備：アカガエル類の産卵状況

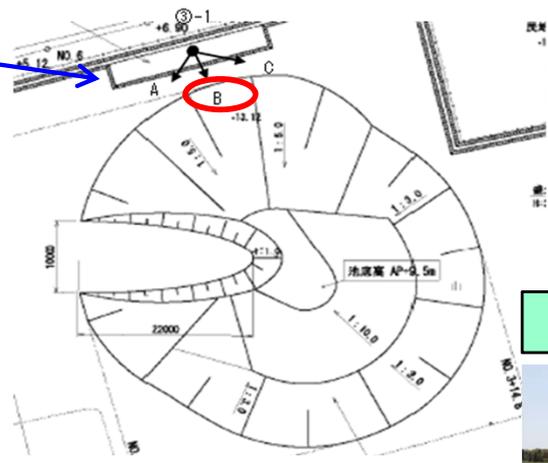
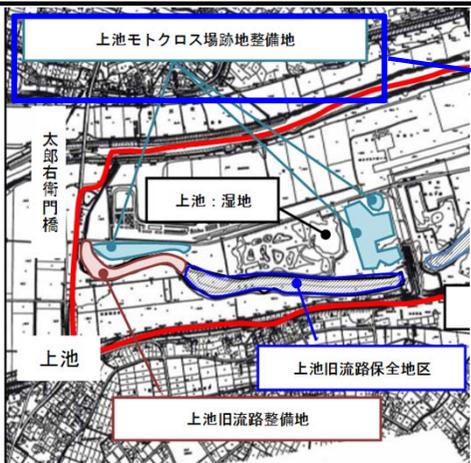
非公開

非公開

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H23整備：写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



今後の調査予定 (整備地の調査として実施)	
写真撮影	11月まで月1回
植生図	秋(前回報告)
植物相	春(前回報告)、夏(前回報告)
鳥類	春(前回報告)
両生類	早春



4月26日



5月24日



6月24日



7月26日



8月31日



9月26日



10月25日



11月29日



斜面部はオギ等、底面部はヨシ等が生育している。

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H23整備：植物 重要種・外来種【春季】

非公開

H25.5の結果

H27.5の結果

非公開

H26.5の結果

H28.5の結果

非公開

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H23整備：植物 重要種・外来種【夏季】

非公開

H25.8の結果

H27.8の結果

非公開

H26.8の結果

H28.8の結果

非公開

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

前回報告

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H23整備：植物 植生図【秋季】

非公開

H26.10の結果

H27.10の結果

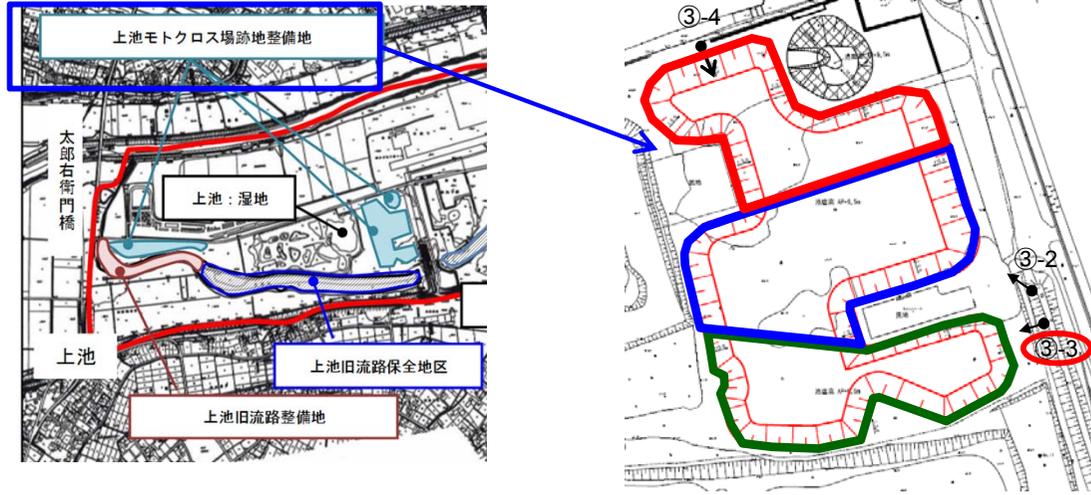
H28.9の結果



非公開

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H25-27整備：写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



今後の調査予定 (整備地の調査として実施)	
写真撮影	11月まで月1回
植生図	秋(前回報告)
植物相	春(前回報告)、夏(前回報告)
鳥類	春(前回報告)
両生類	早春



4月26日



5月24日



6月24日



7月26日



8月31日



9月26日



10月25日



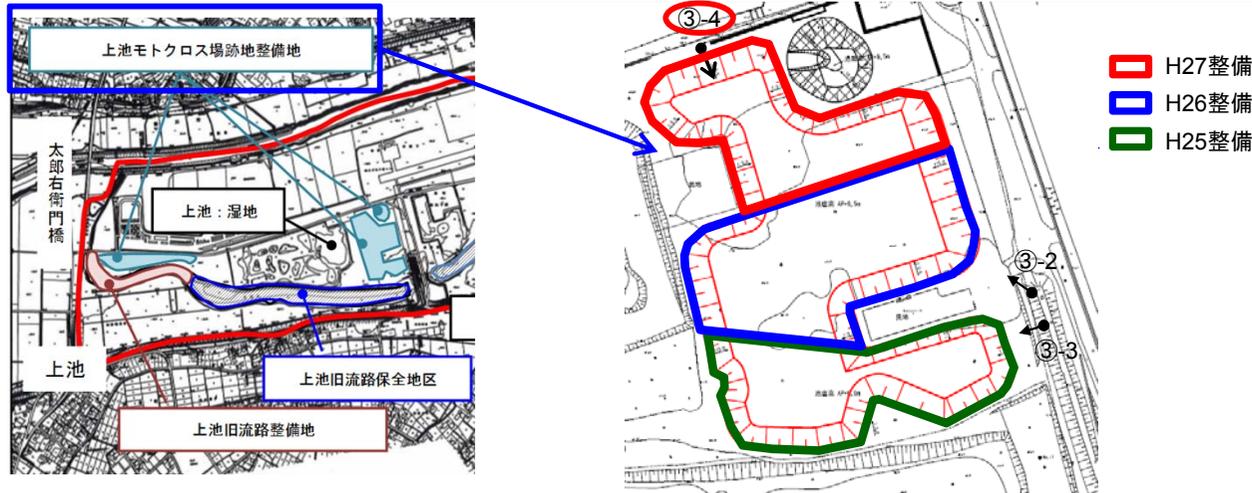
11月29日



斜面部はオギ等、底面部はおおむね裸地である。
8月に水面が形成され湿地が維持されている。

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H25-27整備：写真撮影

参考撮影 H27整備地を撮影



上池③-4

4月26日



5月24日



6月24日



7月26日



8月31日



9月26日



10月25日



11月29日



5月までは斜面部、底面部は裸地で、6月は草本が繁茂し始めている。
8月に水面が形成され湿地が維持されている。

4. 自然再生事業の実施計画に関する調査

前回報告

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H25-27整備：植物 重要種・外来種【春季】

非公開

参考
(過年度分)

H26.5の結果

H27.5の結果

非公開

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H25-27整備：植物 重要種・外来種【春季】

非公開

H28.5の結果

非公開

4. 自然再生事業の実施計画に関する調査

前回報告

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H25-27整備：植物 重要種・外来種【夏季】

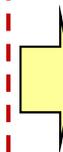
参考
(過年度分)

H26.8の結果

H27.8の結果



非公開



4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H25-27整備：植物 重要種・外来種【夏季】

非公開

H28.8の結果

非公開

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H23・25-27整備：植物 確認種【春・夏季】

植物相

既存部はH23整備
拡張部はH25-27整備

【重要種凡例】

国：2015、県：2011
絶滅危惧ⅠB類(EN)、絶滅危惧Ⅱ類(VU)、準絶滅危惧(NT、NT1、NT2)

【外来種凡例】

外来生物法：2004 特定外来種(特定)
我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト：2015
「定着を予防する外来種」侵入予防外来種(定着(侵入))、(定着予防外来種)その他の定着予防外来種(定着(その他))、「総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種)」緊急対策外来種(総合(緊急))、重点対策外来種(総合(重点))、その他の総合対策外来種(総合(その他))、「適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種)」(産業)
外来種ハンドブック：2002
指定種(○)、その他：植栽・逸出種(植逸)

非公開

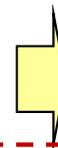
4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H25-27整備：植物 植生図【秋季】

非公開

H26.10の結果



H27.10の結果



H28.9の結果

非公開

4. 自然再生事業の実施計画に関する調査

前回報告

4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H23・H25-27整備：鳥類 確認種

非公開

非公開

【重要種凡例】国：2015、県：2008

絶滅(EX)、野生絶滅(EW)、絶滅危惧Ⅰ類(GR+EN)、絶滅危惧ⅠA類(GR)、絶滅危惧ⅠB類(EN)、絶滅危惧Ⅱ類(VU)、準絶滅危惧(NT、NT1、NT2)、情報不足(DD)、絶滅のおそれがある地域個体群(LP)、地帯別危惧(RT)

【外来種凡例】

外来生物法：2004 特定外来種(特定)

我が国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト：2015

「定着を予防する外来種」侵入予防外来種(定着(侵入))、(定着予防外来種)その他の定着予防外来種(定着(その他))、「総合的に対策が必要な外来種(総合対策外来種)」緊急対策外来種(総合(緊急))、重点対策外来種(総合(重点))、その他の総合対策外来種(総合(その他))、「適切な管理が必要な産業上重要な外来種(産業管理外来種)」(産業)

外来種ハンドブック：2002 指定種(○)、その他：家禽

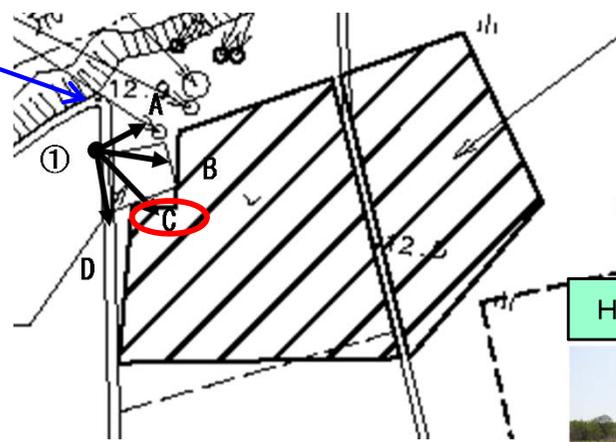
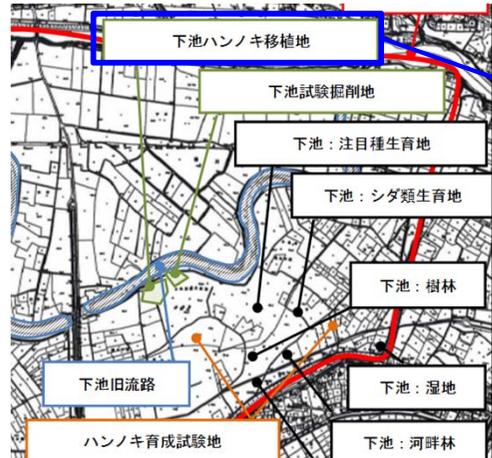
4) 上池・モトクロス場跡地整備地D H23・H25-27整備：アカガエル類の産卵状況

非公開

非公開

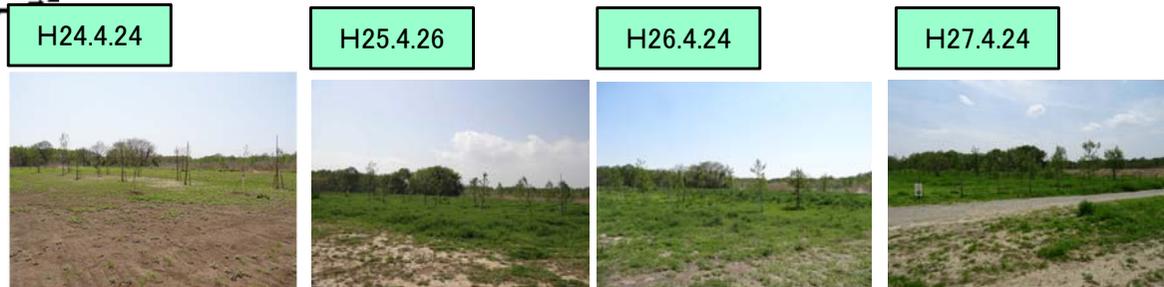
5) 下池・移植地：写真撮影

●各地点のうち、代表的な撮影方向のみ示した。



今後の調査予定 (整備地の調査として実施)	
写真撮影	11月まで月1回
ミドリシジミ	初夏(前回報告)
ハンノキ	秋(今回報告)

下池①-C



大きくなったハンノキは順調に生育していたが、5月以降、周辺につる性の草本が繁茂し、小さなハンノキに悪影響を及ぼしていた。

5) 下池・移植地、育成試験地：ミドリシジミ

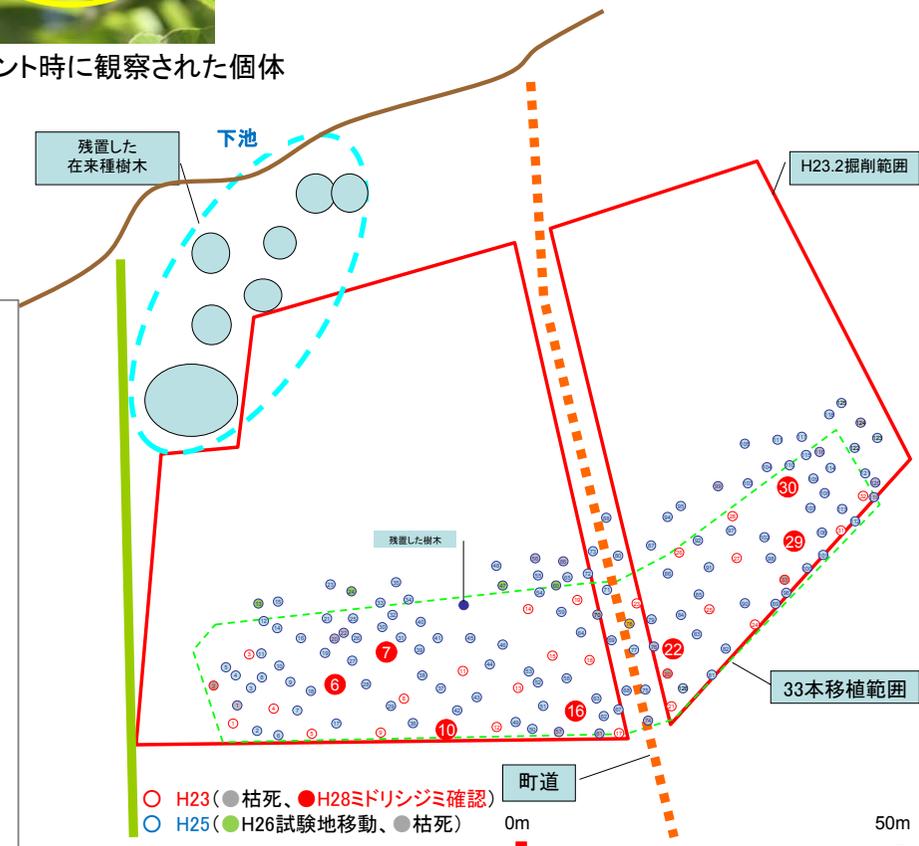
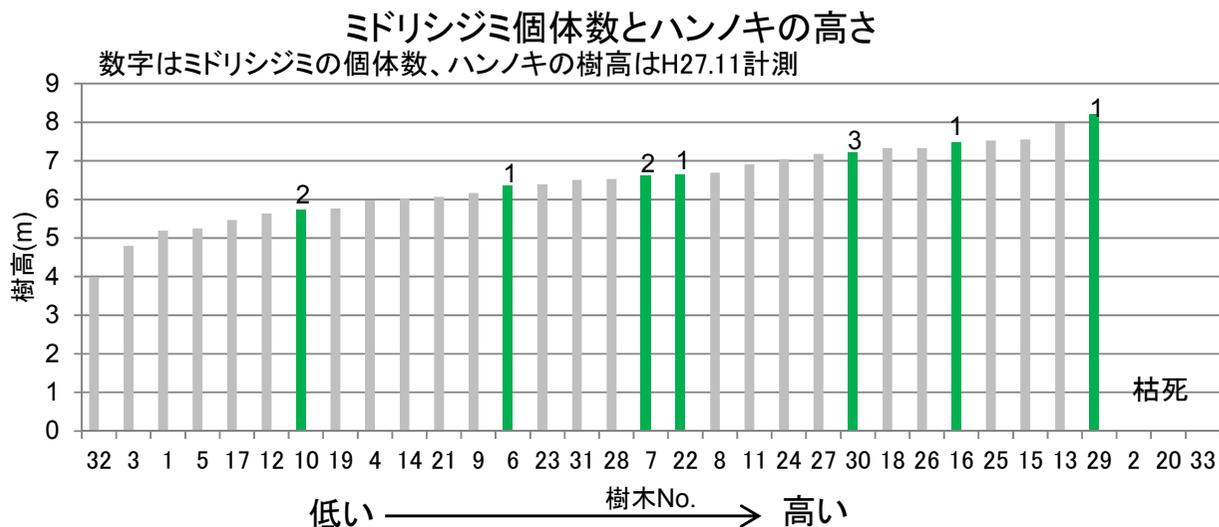
- ミドリシジミは、下池・移植地11個体、育成試験地②2個体、育成試験地③5個体の合計18個体確認されました。
- ミドリシジミの確認個体数は、調査年によってバラツキはありますが安定して生息しています。
- ミドリシジミが確認されたハンノキのサイズやその位置については明確な傾向はありませんでした。

【ミドリシジミ確認状況】

調査箇所	H24	H25	H26	H27	H28
移植地	0	3	16	8	11
試験地②	3	5	7	8	2
試験地③	0	1	0	3	5



6月26日イベント時に観察された個体

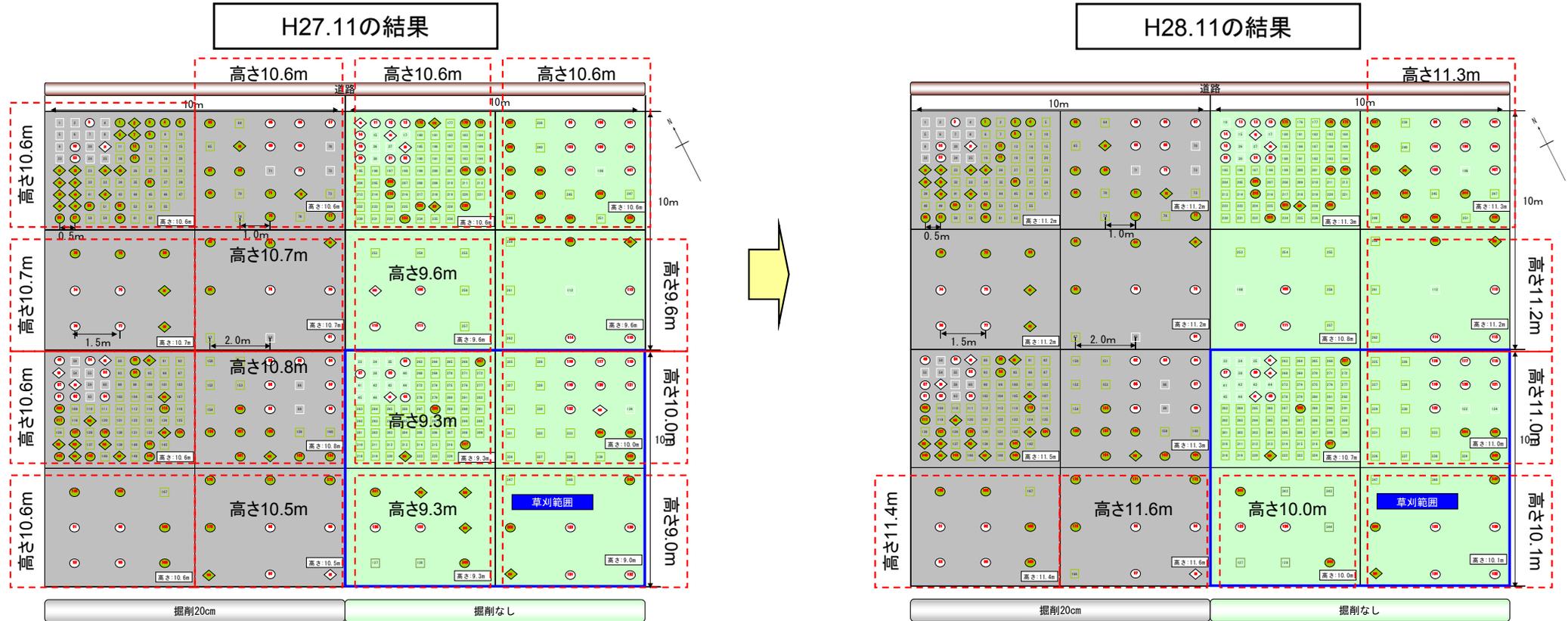


ミドリシジミ確認位置

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

5) 下池・移植地、育成試験地：試験地②のハンノキ【秋季】

- ハンノキはH27年11月からの生育状態については大きな変化は認められませんでした。
- 高さは掘削有りで0.7m程度、掘削無しで1.1m程度、全体で0.9m程度高くなっています。



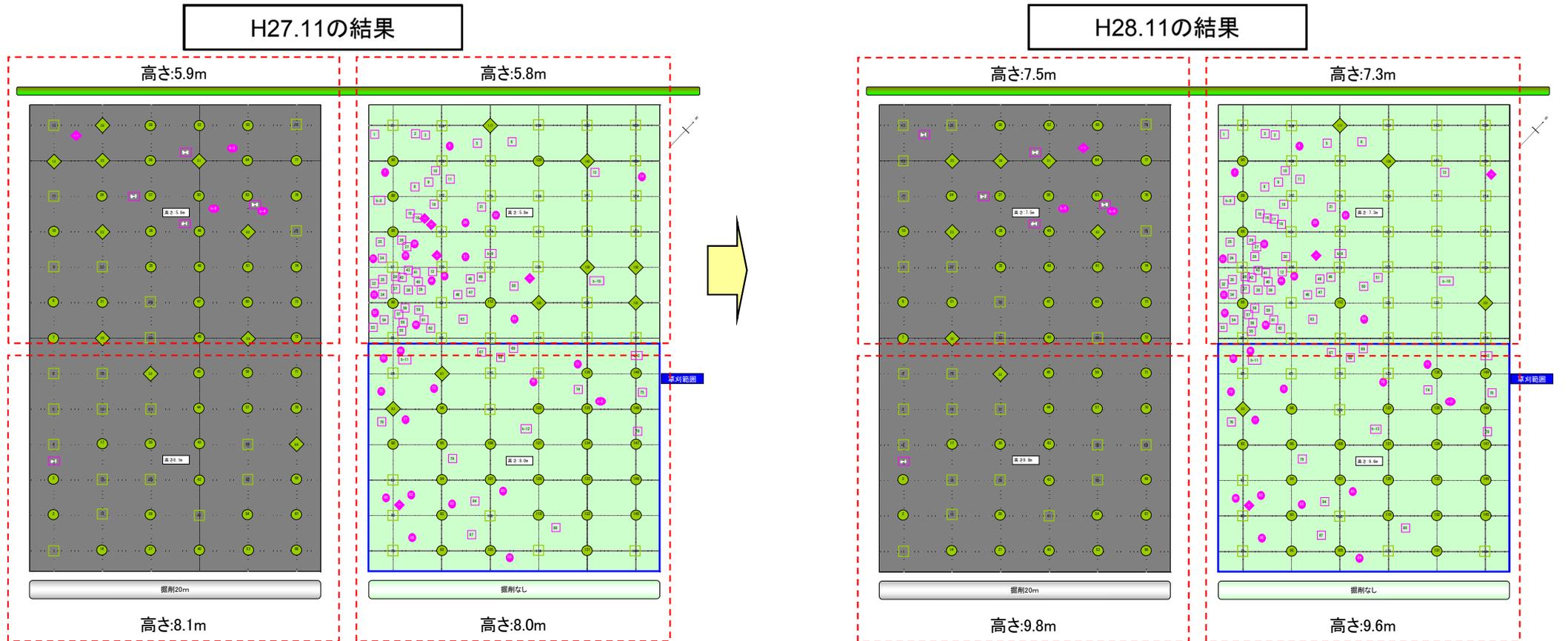
初期の移植密度が高かった範囲で生育不良と枯死が目立つ

凡例	移植方法	白: 幼木移植	緑: 萌芽更新移植
	生育状態	●: 良、◆: 不良 □: 枯死	●: 良、◆: 不良 □: 枯死

4. 自然再生事業の実施計画に関わる調査

5) 下池・移植地、育成試験地：試験地③のハンノキ【秋季】

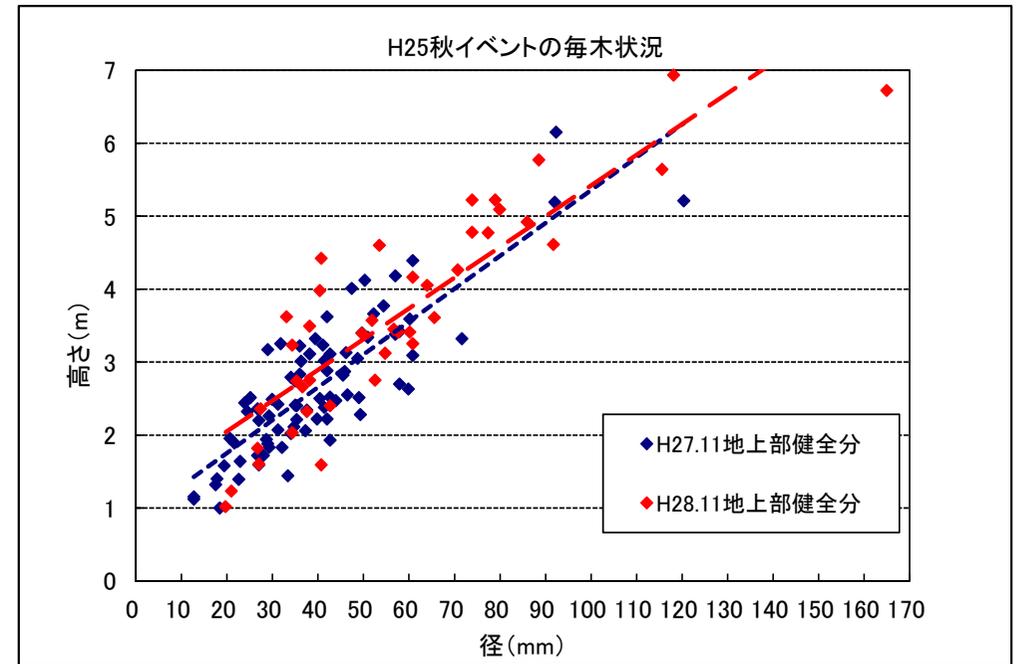
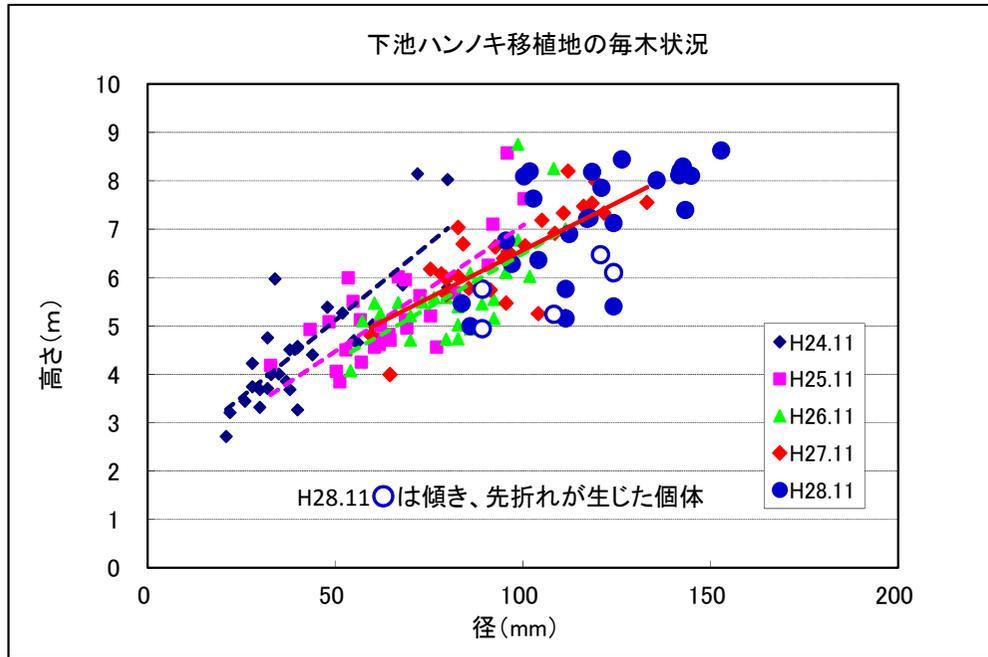
- ハンノキはH27年11月からの生育状態については大きな変化は認められませんでした。
- 高さは掘削有りで1.7m程度、掘削無しで1.5m程度、全体で1.6m程度高くなっています。



凡例	移植方法	白: 幼木移植	緑: 萌芽更新移植
	生育状態	●: 良、◆: 不良 □: 枯死	●: 良、◆: 不良 □: 枯死

5) 下池・移植地、育成試験地：ハンノキ【秋季】

- ハンノキ調査は、H28年11月15日に実施しました。
- 移植した33個体のうち、30個体は生育良好、3個体が枯死で、前回から変化はありません。
- 今回と昨年11月の全個体の平均値を比較すると高さで約0.5m、径で約19mm大きくなっています。
- H25秋イベントで移植した個体は、昨年11月より地上部が枯死した個体を除く平均値を比較すると、高さが約1.0m、径で約18mm大きくなっています。なお、移植時に126本でしたが、現存するのは69本となっています。



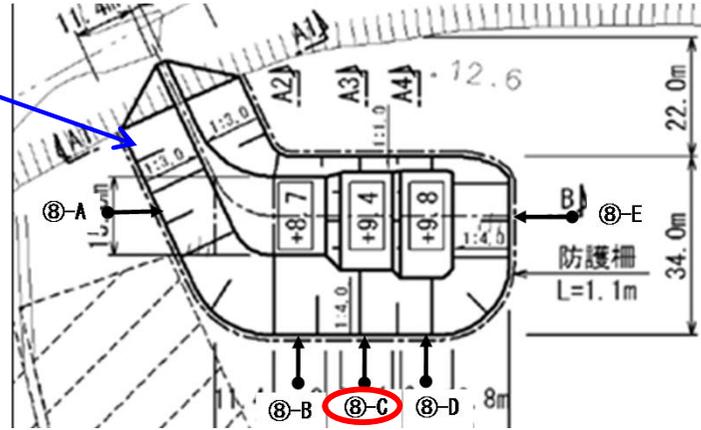
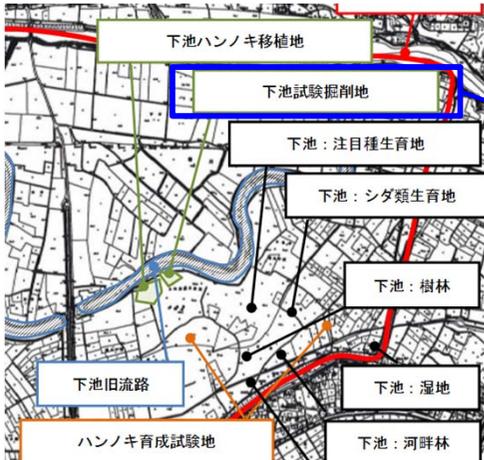
調査実施状況



参考:6月ハンノキ移植地の維持管理(外来種除去) 100

6) 下池・試験掘削地：写真撮影

●H26冬季整備により、植物の出現状況が不明であるため、適宜撮影し、各方向を示した。

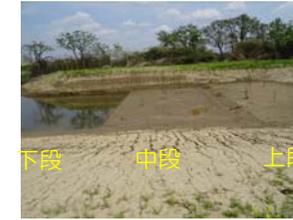


今後の調査予定 (整備地の調査として実施)	
写真撮影	11月まで月1回
植生図	夏～秋(前回報告)

H26.12.16



H27.4.24

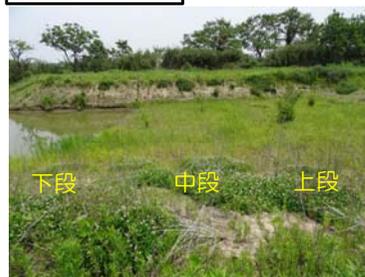


下池㊸-C

4月26日



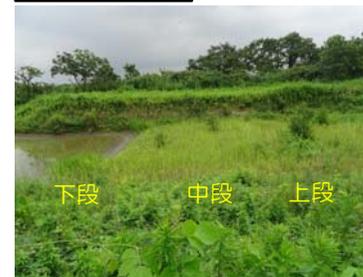
5月24日



6月24日



7月26日



8月31日



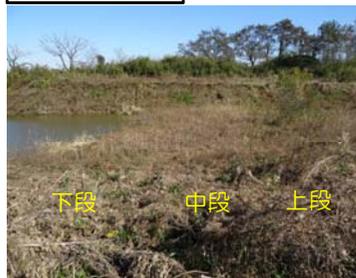
9月26日



10月25日



11月29日



下段は水面が形成され、中～上段は湿地が維持されている。
斜面部、中～上段は草本の生育が目立ちつつある。

7) 下池・試験掘削地：植物 植生図【秋季】

非公開

H27.10の結果

H28.9の結果

非公開

○太郎右衛門地区での委員による情報提供

●荒木委員より、1月に太郎右衛門地区で確認した鳥類、爬虫類に関する情報提供がありましたのでご紹介します。

時期	場所	確認種
10月	非公開	鳥類:ハヤブサ
1月		鳥類:コガモ、カルガモ、マガモ、カワウ、オオバン、カイツブリ、カワセミ、ツグミ、アカハラ、ヒヨドリ、ムクドリ、キジバト、モズ、カケス、タゲリ、トビ、オオタカ、ノスリ、アオサギ、ダイサギ、コゲラ、アオゲラ、メジロ、シメ、アオジ、ジョウビタキ、ホオジロ、カシラダカ、シジュウカラ、エナガ、カワラヒワ 爬虫類:シマヘビ



ハヤブサ(10月)



モズ(1月)



シマヘビ(1月)

(※) このような生物の確認情報について、委員の皆様や周囲の方々が
お持ちのものについて、随時のご提供をお願いします。

○10/16イベント時に採捕された魚

●10/16のイベントでは魚の観察を行いました、そのときに採捕された魚は以下のとおりです。



【参考】とりまとめ資料より既往の確認魚種

目名	科名	種名	目標種	重要種	外来種	施工前 H14~20	施工中 H21~26	
ウナギ コイ	ウナギ コイ	ニホンウナギ		環EN		●	●	
		コイ				●	●	
		ゲンゴロウブナ		○		●	●	
		ギンブナ				●	●	
		フナ属				●	●	
		タイリクバラタナゴ			総合(重点)	●	●	
		ワタカ			○	●	●	
		ハス			総合(その他)	●	●	
		オイカワ				●	●	
		ソウギョ			総合(その他)	●	●	
		モツゴ				●	●	
		タモロコ			○	●	●	
		ツチフキ			○	●	●	
		ニゴイ				●	●	
		スゴモロコ			○	●	●	
ドジョウ	ドジョウ	ドジョウ		環DD		●	●	
		カラドジョウ				●	●	
ナマズ	ナマズ	ナマズ	○	県(荒川以西・全県NT2)		●	●	
サケ	キュウリウオ	ワカサギ			○	●	●	
ダツ	メダカ	ミナミメダカ	○	環VU、県(荒川以西・全県VU)		●	●	
スズキ	サンフィッシュ	ブルーギル		特定・総合(緊急)		●	●	
		オオクチバス		特定・総合(緊急)		●	●	
	ハゼ	ウキゴリ			県(荒川以西・全県DD)		●	
		ジュズカケハゼ または ムサシノジュズカケハゼ			*1:環NT *2:環EN、県(荒川以西・全県NT2)		●	
		旧トウヨシノボリ類 ヨシノボリ属 スマチチブ					●	●
タイワンドジョウ	カムルチー			○	●	●		
6目	9科	26種	3種	6種	13種	22種	18種	

※ 種名は「河川水辺の国勢調査のための生物リスト 平成27年度生物リスト(河川環境データベース 国土交通省 2015年)」に準拠した。
 *1: ジュズカケハゼ(環境省レッドデータブックにはジュズカケハゼ広域分布種と記載の場合)
 *2: ムサシノジュズカケハゼ(環境省レッドデータブックにはジュズカケハゼ関東固有種、埼玉県レッドリストにはウキゴリ属の一種(ジュズカケハゼ(関東型)と記載の場合)

略号	名称	カテゴリ
文化	『文化財保護法』(昭和25年法律第214号)	・特別天然記念物(特天) ・天然記念物(天)
保存	『絶滅のおそれのある野生動物の種の保存に関する法律(種の保存法)』(平成4年法律第75号)	・国内希少野生動物種(国内) ・国際希少野生動物種(国際)
環	『レッドデータブック2014 -日本の絶滅のおそれのある野生生物- 4 汽水・淡水魚類』(環境省自然環境局野生生物課希少種保全推進室, 2015年)	・絶滅(EX) ・野生絶滅(EW) ・絶滅危惧I A類(CR) ・絶滅危惧I B類(EN) ・絶滅危惧II類(VU) ・準絶滅危惧(NT) ・情報不足(DD) ・絶滅のおそれのある地域個体群(LP)
県	『埼玉県レッドデータブック2008 動物編』(埼玉県, 2008年)	・絶滅(EX) ・野生絶滅(EW) ・絶滅危惧I類(CR+EN) ・絶滅危惧I A類(CR) ・絶滅危惧I B類(EN) ・絶滅危惧II類(VU) ・準絶滅危惧(NT1、NT2) ・情報不足(DD) ・絶滅のおそれのある地域個体群(LP) ・地帯別危惧(RT)

略称	名称	典拠
特定	特定外来種	『特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律』(平成16年法律第78号)
定着(侵入)	侵入予防外来種	
定着(その他)	その他の定着予防外来種	
総合(緊急)	総合対策外来種(緊急対策外来種)	『わが国の生態系等に被害を及ぼすおそれのある外来種リスト(生態系被害防止外来種リスト)』(平成27年3月)
総合(重点)	総合対策外来種(重点対策外来種)	
総合(その他)	総合対策外来種(その他の総合対策外来種)	
産業	産業管理外来種	

○11/13維持管理イベント時に確認された鳥

●11/13の維持管理イベントではハリエンジュの伐採と鳥の観察を行いました。そのときに確認された鳥は以下の16種です。

非公開



鳥の観察の様子

